

小学校基礎学力調査結果分析

目 次

平成16年度 小学校基礎学力調査	
1 目的	3
2 調査対象及び実施教科	3
3 実施期日	3
4 調査問題作成の基準及び方針	3
5 調査集計の方法	3
6 調査結果の分析	3
7 調査結果の概要	4
各教科の分析結果	
1 小学校第3学年	
(1) 国語	
調査問題の構成とねらい	7
平均点	7
小問ごとのねらいと正答率	7
標準解答，正答率，誤答例，考察	8
(2) 算数	
調査問題の構成とねらい	15
平均点	15
小問ごとのねらいと正答率	15
標準解答，正答率，誤答例，考察	16
2 小学校第5学年	
(1) 国語	
調査問題の構成とねらい	23
平均点	23
小問ごとのねらいと正答率	23
標準解答，正答率，誤答例，考察	24
(2) 社会	
調査問題の構成とねらい	31
平均点	31
小問ごとのねらいと正答率	31
標準解答，正答率，誤答例，考察	32
(3) 算数	
調査問題の構成とねらい	41
平均点	41
小問ごとのねらいと正答率	41
標準解答，正答率，誤答例，考察	42
(4) 理科	
調査問題の構成とねらい	49
平均点	49
小問ごとのねらいと正答率	49
標準解答，正答率，誤答例，考察	50
学習状況実態調査	
1 調査内容	59
2 調査結果及び結果分析	61

平成16年度 小学校基礎学力調査

1 目的

本県小学生の基礎学力の定着状況について総合的に調査研究を行い、その実態を把握、分析するとともに、学習指導上の問題点を明らかにし、今後の教育課程の編成・実施及び指導方法の改善に資する。

2 調査対象及び実施教科

(1) 調査対象

県内の公立小学校の中で本調査を希望するすべての小学校を対象とし、第3学年及び第5学年で実施する。

(2) 実施教科

第3学年は、国語、算数の2教科、第5学年は、国語、算数、社会、理科の4教科を実施する。実施時間は、各教科45分とする。国語は聞き取り問題を含む。

3 実施期日

調査の実施期日は、原則として平成16年10月27日（水）、28日（木）とする。

4 調査問題作成の基準及び方針

(1) 調査問題作成の基準

小学校学習指導要領に示されている各教科の目標に即し、県内で使用されている教科書に準拠して、問題を作成する。

(2) 調査問題作成の方針

ア 小学校学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容に基づき、基礎的・基本的な内容について出題する。

イ 出題に当たっては、理解力、思考力、判断力、表現力を総合的にみることができるようにし、単に知識のみを問う内容とならないよう配慮する。

ウ 特定の分野や内容に偏ることなく、広い範囲から出題し、小学校学習指導要領に示された内容について取扱いの趣旨を十分考慮する。

エ 調査結果が、今後比較検討できるような内容にする。

5 調査集計の方法

(1) 調査実施校より、調査集計表、各教科小問別集計表を回収し、調査人数、平均点、小問別正答率、誤答例等を集約する。

(2) 学習の実態を把握するため、「学習や生活についてのアンケート」も併せて実施する。

(3) 各教科小問別集計表と「学習や生活についてのアンケート」のサンプル数は、いずれも各学校1学級当たり5名分とする。その抽出にあたっては、男女合わせた無作為抽出とする。なお、在籍数が5名以下の場合は、全員分とする。

6 調査結果の分析

(1) 各小問別の正答率や主な誤答例を中心に分析し、調査結果に関する考察や指導上の留意点をまとめる。

(2) 調査対象学年について、調査結果の収集・分析を行い、学習の定着状況を把握し今後の指導に役立てる。

(3) 基礎学力の定着状況を把握し、今後の教育施策に生かす。

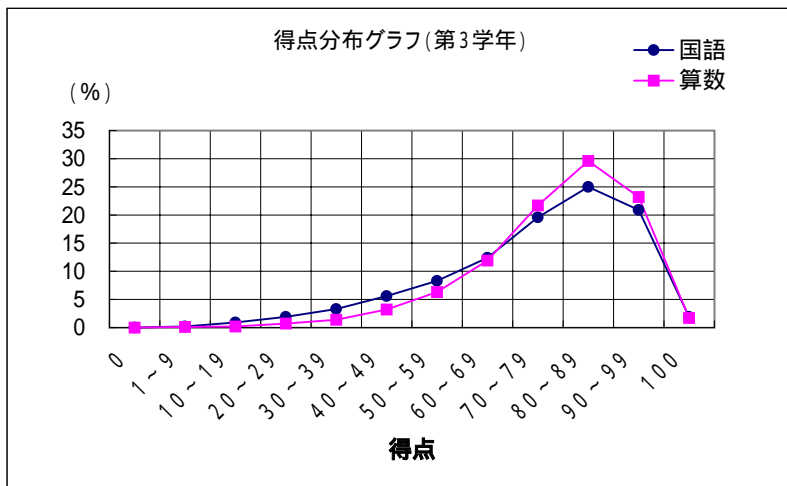
7 調査結果の概要

(1) 調査実施校 269校(宮崎大学教育文化学部附属小学校を含む)

(2) 平成16年度 小学校基礎学力調査結果 得点分布表(県全体)

	第3学年				第5学年							
	国語		算数		国語		社会		算数		理科	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
100	220	1.9	196	1.7	67	0.6	9	0.1	364	3.1	92	0.8
90~99	2430	20.9	2700	23.2	2777	23.8	943	8.1	2590	22.2	2642	23.1
80~89	2913	25.0	3451	29.6	3459	29.6	2653	22.7	2819	24.1	4149	36.2
70~79	2287	19.6	2533	21.7	2353	20.1	2916	25.0	2005	17.2	2584	22.5
60~69	1449	12.4	1382	11.9	1332	11.4	2261	19.4	1403	12.0	1200	10.5
50~59	964	8.3	736	6.3	800	6.8	1405	12.0	999	8.5	489	4.3
40~49	656	5.6	374	3.2	458	3.9	767	6.6	702	6.0	168	1.5
30~39	387	3.3	162	1.4	228	2.0	400	3.4	421	3.6	77	0.7
20~29	222	1.9	82	0.7	130	1.1	195	1.7	241	2.1	35	0.3
10~19	101	0.9	29	0.2	65	0.6	101	0.9	105	0.9	22	0.2
1~9	18	0.2	12	0.1	16	0.1	21	0.2	36	0.3	6	0.1
0	3	0.0	1	0.0	2	0.0	1	0.0	4	0.0	1	0.0
受検者数	11650		11658		11687		11672		11689		11459	
総得点	858775		899275		898581		806105		870089		912682	
最高点	100		100		100		100		100		100	
最低点	0		0		0		0		0		0	
平均点	73.7		77.1		76.9		69.1		74.4		79.6	

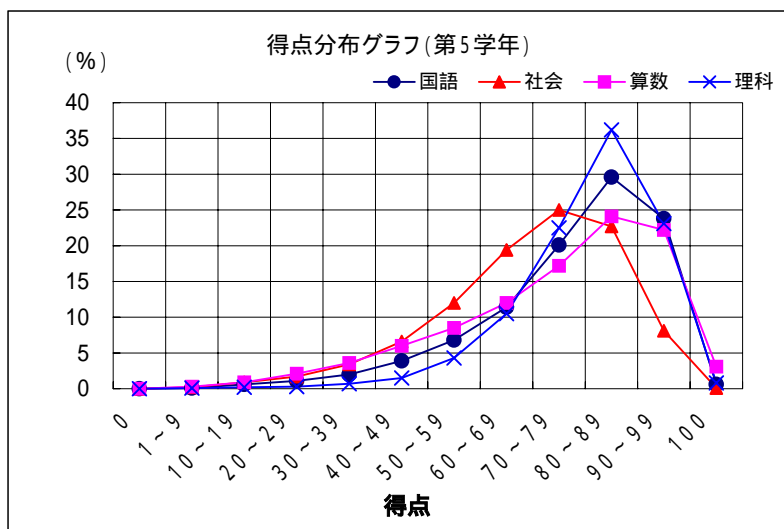
(3) 得点分布グラフ 第3学年



各教育事務所調査人数

事務所	国語	算数
宮崎	4214	4215
南那珂	774	774
北諸県	2071	2074
西諸県	772	773
児湯	1098	1099
東白杵	2412	2414
西白杵	206	206

第5学年



各教育事務所調査人数

事務所	国語	社会	算数	理科
宮崎	4213	4220	4213	4171
南那珂	762	761	761	756
北諸県	2112	2109	2109	2106
西諸県	827	823	824	819
児湯	1136	1136	1133	1135
東白杵	2292	2277	2303	2134
西白杵	241	241	241	233

各教科の分析結果

1 小学校第3学年

(1) 国語

分析結果の表記について

「小問ごとのねらいと正答率」の評価の欄の については、県正答率と予想正答率との差を記号化して示している。

- 1 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上高いもの.....
- 2 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上低いもの.....
- 3 1と2の間にあるもの

「小問ごとのねらいと正答率」の比較の欄の「H15」「全国」については、過去の基礎学力調査問題や全国教育課程実施状況調査問題と同一問題、類似問題であることを示している。

- 1 H15 ~平成15年度基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 2 全国~平成13年度全国教育課程実施状況調査問題と同一または類似問題
正答率と誤答率は、抽出調査した全人数に対する割合を表している。

誤答例については、抽出調査した中で、割合の高かったものを中心に記載している。

(1) 国語

調査問題の構成とねらい

- ・ 「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」及び〔言語事項〕に関する基礎的・基本的な知識や能力をみる問題とした。
- ・ 問題は、「聞き取り」、「物語文」、「説明文」、「ことば」、「話すこと」の5部構成とし、基礎的・基本的な内容について、特定の分野や内容に偏ることのないように、広い範囲から出題した。

平均点 73.7点

小問ごとのねらいと正答率

大問	分野	小問	内容・ねらい		主な領域・事項	大問別正答率	小問別正答率	予想正答率	評価	比較
一	聞き取り	1	内容の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞	88.5	80.7	70		
		2	内容の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞		96.4	75		H15
		3	内容の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞		88.3	75		H15
二	物語文	1	適語挿入	文脈を踏まえて適語を選択することができる。	読	68.9	89.8	80		H15
		2	適語抜出	文脈を踏まえ該当表現を指摘することができる。	読		72.6	75		H15
		3	内容把握	文脈を踏まえて場面の様子を理解することができる。	読		58.6	70		
		4	内容把握	文脈を踏まえて場面の様子を想像することができる。	読		54.6	65		
三	説明文	1	内容把握	文脈を踏まえて、問題提示の段落を指摘することができる。	読	67.3	62.6	80		H15
			内容把握	文脈を踏まえて、問題提示の段落を指摘することができる。	読		47.8	70		
		2	内容把握	文脈を踏まえて、叙述の細部を読み取ることができる。	読		63.5	70		
		3	適語抜出	文脈を踏まえて、該当表現を指摘することができる。	読		82.9	80		
		4	適語抜出	文脈を踏まえて、該当表現を指摘することができる。	読		72.1	75		
			適語抜出	文脈を踏まえて、該当表現を指摘することができる。	読		74.6	75		
四	ことば	1	(1) 筆順(書写)	正しい筆順で書くことができる。	言語	76.4	64.0	60		H15
			(2) 筆順(書写)	正しい筆順で書くことができる。	言語		66.9	60		
		2	(1) 漢字の読み	小学校3年生までに学習した漢字を読むことができる。	言語		55.2	65		H15
			(2) 漢字の読み	小学校3年生までに学習した漢字を読むことができる。	言語		98.0	75		
			(3) 漢字の読み	小学校3年生までに学習した漢字を読むことができる。	言語		79.3	70		
			(4) 漢字の読み	小学校3年生までに学習した漢字を読むことができる。	言語		83.6	70		
		3	(1) 漢字の書き	小学校2年生までに学習した漢字を書くことができる。	言語		77.8	80		
			(2) 漢字の書き	小学校2年生までに学習した漢字を書くことができる。	言語		82.9	80		
			(3) 漢字の書き	小学校2年生までに学習した漢字を書くことができる。	言語		60.3	80		
			(4) 漢字の書き	小学校2年生までに学習した漢字を書くことができる。	言語		80.1	80		
		4	(1) 形のかわる	動作を表すことばが、使い方で形がかわることを理解できる。	言語		94.6	80		
			(2) ことば	動作を表すことばが、使い方で形がかわることを理解できる。	言語		86.7	80		
			(3) ことば	動作を表すことばが、使い方で形がかわることを理解できる。	言語		79.3	80		
		5	国語辞典の使い方	国語辞典に配列されている語の順番が理解できる。	言語		77.1	70		
6	(1) 表記の仕方	正しい文章の表記の仕方が理解できる。	言語	63.2	90		H15			
	(2) 表記の仕方	正しい文章の表記の仕方が理解できる。	言語	73.8	90					
五	話すこと	1	筋道を立てて話すこと	物事の順序や伝えたいことの内容を意識して適切に話すことができる。	話聞	89.6	92.3	70		
			筋道を立てて話すこと	物事の順序や伝えたいことの内容を意識して適切に話すことができる。	話聞		93.5	70		
			筋道を立てて話すこと	物事の順序や伝えたいことの内容を意識して適切に話すことができる。	話聞		88.6	70		
		2	話し方	相手やその場に応じた分かりやすい話し方に気を付けることができる。	言語		79.9	80		
話し方	相手やその場に応じた分かりやすい話し方に気を付けることができる。		言語	93.6	70					

主な領域・事項は、話聞...「話すこと・聞くこと」、読...「読むこと」、言...「言語事項」を示している。

一 正答率 (88.5%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	おかあさんが、 かぜをひいた(ひ いている)から	80.7		おかあさんが病気だから(3.6) おかあさんが熱を出したから(2.4)
2	イ	96.4	H15 97.2 類似	ア(2.0) ウ(0.4)
3	ア	88.3	H15 91.1 類似	ウ(9.6) イ(2.0)

< 考察 >

話の中心に気を付けて、大事な事を聞き取る力をみる問題である。

全体の結果から、聞く力はおおむね身に付いていると考えられる。問2、問3は、H15の類似問題であるが、正答率はほぼ同じである。問2、問3に比べて問1の正答率が低いのは、話の中心的内容については大まかにつかむことができるものの、中心的内容にかかわる細かいところまでは、正確に聞き取ることができていないためと思われる。誤答の中では、風邪を引いたことを「病気」や「熱」と答えている例が多い。お母さんに事情があったからということまでは理解できていても、どのような理由でという部分に注意を払って聞き取ることができなかつたためと思われる。

そこで、指導に当たっては、学年の発達段階に応じた聞き方(基本聴型)を整理し、事柄の順序や要点、中心など、話の組立て方を意識しながら、大事な事を聞き取ることができるよう指導することが大切である。その際、接続語や文末表現を意識しながら文のまとまりに着目するといった具体的な観点を示し、メモの取り方についても具体的に分かりやすく指導を行う必要がある。

二 正答率 (68.9%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	イ	89.8	H15 88.1 類似	ア(4.4) ウ(3.0)
2	生まれたばかりの、小さな白い馬	72.6	H15 78.5 類似	生まれたばかりの白い馬でした。(3.6) 読点なし(6.4) 誤字,脱字(2.6)
3	体は雪のように白く、きりっと引きしまって、だれでも、思わず見とれるほどでした。	58.6		すすくと育ちました。(1.8) 句読点なし(6.4) 誤字,脱字(2.6)
4	(例)馬やひつじはだいじょうぶかなという気持ち	54.6		おおかみがひつじにとびかかろうとしていたから(3.2) 本文の書き抜き(1.8) 無解答(3.8)

<考察>

物語文を素材に、場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読み取る力をみる問題である。

問1は、文脈を踏まえて適語を選択する問題で、H15の類似問題であるが、昨年度同様、正答率は高い。問2は、文脈を踏まえて叙述に即した言葉の意味を問う問題で、これもH15の類似問題であるが、正答率が約6ポイント低下している。誤答の原因としては、正しく書き抜くことができずいたり、白いものが何かを読み取れていなかったりしていることが考えられる。問3は、すすくと育った状態がどのようなものかを問う問題である。誤答の原因としては、すすくと育つという意味が理解できなかったり、正確に書き抜くことができずいたりしていることが考えられる。問4は、文脈に即して主人公の気持ちを考える問題であるが、正答率が特に低い。誤答の原因としては、駆けつけているときの気持ちを問う問題であるが、駆けつけた後の状況や気持ちを書いたり、本文を書き抜いたりしており、本文や問題文を正しく理解していないことが考えられる。

そこで、指導に当たっては、言葉への気付きを大切に、文脈における言葉の意味、語感などの幅のある理解や読み取りを通して、表現の役割や価値をとらえられるようにする必要がある。そのためには、日頃から、文章を読むこと(音読・朗読)を丁寧に指導したい。授業では、声に出して文章を読むことを指導過程の中に取り入れ、叙述に即して心情や場面の様子などを想像しながら読み取らせることが大切である。話合いにおいても、単に印象のみを発表し合うのではなく、叙述を基に考えを深め合うことが大切である。

三 正答率 (67.3%)

問題番号	標準解答	正答率(%)		比較(%)	誤答例(%)
1		62.6	55.2	H15 37.0 類似	(15.4)
		47.8			(5.9)
2	はじめの一ぴきのみつばちが、すばこに帰って、なかまに教えたのではないか。	63.5			花のみつのかわりにさとう水を入れた皿をおいた(2.2) みつをすうため(1.6) 誤字, 脱字(1.8) 無解答(3.6)
3	さとう水	82.9			はなのみつ(2.2) みつばち(1.2) 無解答(2.8)
4	(1) 円のダンス (円をえがくようなダンス)	72.1			左回りや右回りをする(2.6) 円のダンスを教える(2.4) 無解答(3.0)
	(2) 8の字のダンス (8の字を書くようなダンス)	74.6			8の字ダンスを教えている(2.8) 字のダンス(2.2) 無解答(3.6)

<考察>

説明文を素材に、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読む力をみる問題である。

問1は、文脈を踏まえて問題提示の段落を指摘する問題で、H15の類似問題であるが、昨年度に比べて正答率が伸びているものの、高いとは言えない。問題文に、「読み手にたずねている」とあるにもかかわらず、「～でしょう。」や「～のでしょうか。」のような文末表現に注目することができていない。問2は、大問三の中で正答率が最も低かった問題で、文脈を踏まえて、叙述の細部を読み取ることを問う問題である。学者の考えを聞いているのに、実験方法やみつばちが花畑に来る理由などを答えている誤答が多く、問題文を細かく読み取ることができていないことが分かる。問3、問4は、文脈を踏まえて、該当表現を指摘する問題であるが、中心となる語や文をとらえて読む力は、ついていると考えられる。問4の誤答例を見ると、文章全体の流れや要旨を的確にとらえることができていないために、問いかけ・実験・結果などの段落の構成が読み取れていないことが分かる。

そこで、指導に当たっては、説明文の特徴や段落の構成などを的確に押さえていく必要がある。そのためには、段落の要点を抜き出したり、意味のまとまりごとに小見出しを付けたりするなど、内容を整理することが大切である。その際、接続語や文末表現などにも注目させながら、内容と形式の両面から、段落や文章構成について理解できるように指導することが大切である。

四 正答率 (76.4%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	(1) 六	64.0	H15 62.5 類似	八(22.4) 七(3.2)
	(2) 十三	66.9		十四(7.4) 十五(4.8)
2	(1) さいじつ	55.2	H15 74.4 同一	まつりび(4.0) まつり(3.2)
	(2) あ	98.0		あける(0.2) か(0.2)
	(3) そそ	79.3		およ(3.4) つ(2.8) 無解答(3.0)
	(4) どうさ	83.6		どうさく(4.2) 無解答(2.4)
3	(1) 黄色	77.8		黄ろ(3.2) 黄(3.0)
	(2) 午後	82.9		午後(2.0) 後午(1.8)
	(3) 通じる	60.3		通(1.4) 無解答(4.2)
	(4) 強まる	80.1		強丸(4.6) 無解答(2.6)
4	(1) 走ら	94.6		走(0.2) 走し(0.2) 無解答(0.8)
	(2) 走れ	86.7		走しれ(1.0) いけ(1.0) 無解答(2.4)
	(3) 走ろ	79.3		いこ(1.2) 走りあ(1.0) 無解答(3.0)
5	(3) (1) (2) あ あ あ き か き か い か ん ぜ	77.1		あかい あきかん あきかぜ(11.4) あきかぜ あきかん あかい(11.0)
6	(1) え へ	63.2	H15 87.2 類似	え に(2.6) 無解答(13.0)
	(2) 「わあ、にじだ。 きれいだね。」	73.8	H15 73.3 類似	「わあ、にじだ。」(2.2) 無解答(5.6)

< 考察 >

第3学年(教科書上巻)までに学習した漢字の読みと筆順,第2学年までの漢字の書きなど言語事項に関する力をみる問題である。

問1の漢字の筆順を問う問題は,H15の類似問題であり,正答率は昨年度同様,やや低い。問2,問3の漢字の読み書きについては,正答率からみると,その力が向上していることがうかがえる。しかし,問2(1)や問3(3)の正答率が極端に低くなっている。日常生活であまり使わない漢字の定着が十分でない。問4は,動詞の活用についての問いであるが,正答率は低くはないものの,全く違う言葉を答えている例もある。問題の意味を理解できていないためと考えられる。問6は,正しい文章表記の仕方を問うもので,第1学年で指導する内容であるが,昨年度と比べて正答率が極めて低くなっており,定着が十分でない。

そこで指導に当たっては,筆順や漢字の読み書き,活用と送り仮名などについて,重点的な指導を行い,文や文章を書く際に,漢字のもつ意味を考えながら正しく使う習慣を付けさせることが大切である。助詞の「は,へ,を」やかぎ(「」)の使い方については,視写や聴写の指導や,さまざまな書く機会をとらえた指導の中で,繰り返し指導して意識させることが必要である。さらに,語彙力を高めるために,国語辞典や漢字辞典などの使い方を理解させるために,必要なときにはいつでも辞書が手元にあり,使えるようにすることも大切である。

五 正答率 (89.6%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例 (%)
1	イ	92.3	ウ(5.2)
	ア	93.5	ウ(2.2)
	ウ	88.6	イ(3.0) ア(2.4)
2	イ	79.9	ウ(7.0) ア(3.2)
	エ	93.6	ウ(1.8)

< 考察 >

相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す力をみる問題である。

問1は、伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて話す力をみる問題である。問2は、伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて話すこと、及び言語事項(1)(ア)「その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話すこと」にかかわる問題である。いずれも正答率が高く、物事の順序や自分の思いなどが、分かりやすく伝わるように筋道を立てて話す力は、おおむね身に付いていると考えられる。

このような力を一層伸ばすためには、具体的な相手や目的を設定し、知りたい、分かりたいと思う相手に対して、知らせたい、伝えたいと思う事柄を話すという言語活動を展開することが大切である。その中で、行動の順序、時間の順序、場面の移り変わりの順序などを考えながら相手に分かりやすく話そうとすること、話の中心をはっきり決めて話そうとすること、話の要点が伝わるように工夫して話そうとすることなどを大切に指導する必要がある。また、場面や条件の違いに応じて、聞き手が聞き取りやすい音量や速さで話すという指導も必要である。

1 小学校第3学年

(2) 算数

分析結果の表記について

「小問ごとのねらいと正答率」の評価の欄の については、県正答率と予想正答率との差を記号化して示している。

- 1 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上高いもの.....
- 2 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上低いもの.....
- 3 1と2の間にあるもの

「小問ごとのねらいと正答率」の比較の欄の「H15」「全国」については、過去の基礎学力調査問題や全国教育課程実施状況調査問題と同一問題、類似問題であることを示している。

- 1 H15 ~ 平成15年度基礎学力調査問題と同一または類似問題
 - 2 全国 ~ 平成13年度全国教育課程実施状況調査問題と同一または類似問題
- 正答率と誤答率は、抽出調査した全人数に対する割合を表している。
誤答例については、抽出調査した中で、割合の高かったものを中心に記載している。

(2) 算数

調査問題の構成とねらい

- ・ 4つの領域の基礎的・基本的な内容を、3つの観点からみる問題とした。
- ・ 日常生活に見られる題材を取り上げ、興味・関心をもって取り組める問題とした。
- ・ 表現されたものから必要な情報をよみとり、的確に問題解決を図ることができるかみる問題とした。
- ・ 多様な考え方や表現力をみる問題を取り上げた。

平均点 77.1点

小問ごとのねらいと正答率

領域	大問	小問	内容・ねらい	主な観点	領域別正答率	小問別正答率	予想正答率	評価	比較
第1部 数と計算	1	(1)	加法(1位数+1位数)の計算ができる。	表	83.1	97.6	95		H15
		(2)	加法(2位数+1位数)の計算ができる。	表		97.4	95		H15
		(3)	加法(2位数+2位数)の計算ができる。	表		94.0	90		H15
		(4)	加法(3位数+2位数)の計算ができる。	表		86.9	85		H15
		(5)	減法(2位数-1位数)の計算ができる。	表		93.2	90		H15
		(6)	減法(3位数-2位数)の計算ができる。	表		90.9	85		H15
		(7)	減法(2位数-2位数)の計算ができる。	表		88.8	85		H15
		(8)	減法(3位数-3位数)の計算ができる。	表		76.3	75		H15
		(9)	乗法(1位数×1位数)の計算ができる。	表		94.9	95		H15
		(10)	乗法(何十×何)の計算ができる。	表		95.7	90		
		(11)	除法(2位数÷1位数)の計算ができる。	表		97.0	95		H15
		(12)	除法(2位数÷1位数)の計算ができる。	表		96.7	95		
	2	(1)	数の大小を比べることができる。	知	84.9	85			
		(2)	数の大小を比べることができる。	知	83.2	85			
		3	(1)	数の相対的な大きさをとらえることができる。	表	65.0	70		
			(2)	1万をこえる数の表記ができる。	表	67.4	60		H15
4	(3)	数直線上で求める数の位置がわかる。	表	76.8	75		H15		
	しき 答え	わり算とたし算を組み合わせ、立式ができる。 わり算とたし算を組み合わせ、問題が解ける。	考 表	48.9 43.9	50 50		H15 H15		
第2部 量と測定	5	(1)	長さを測定し、正しく表記することができる。	表	71.0	72.0	75		H15
		(2)	長さを計算を式に表すことができる。 長さの問題が解ける。(答え)	考 表		82.3 66.5	80 70		H15 H15
	6	(1)	道のりの計算を式に表すことができる。 道のりの問題が解ける。(答え)	考 表		94.8 66.0	75 65		H15 H15
		(2)	単位を適切に選ぶことができる。(km)	知		76.5	85		
	7	(1)	単位を適切に選ぶことができる。(l)	知		77.6	75		H15
		(2)	単位を適切に選ぶことができる。(cm)	知		83.2	85		
	8	(1)	単位を適切に選ぶことができる。(ml)	知		82.2	60		H15
		(1)	時間を計算によって求めることができる。	表		63.7	75		
	9	(2)	時刻を計算によって求めることができる。	表		58.4	65		H15
		(3)	時間を計算によって求めることができる。	表		28.6	50		
第3部 図形	9	(1)	色板で形をつくることができる。	表	84.2	79.8	85		H15
		(2)	色板で形をつくることができる。	表		69.4	80		
	10	(1)	三角形の弁別ができる。	知		89.5	90		H15
		(2)	四角形の弁別ができる。	知		86.4	90		H15
	11	(1)	三角形を分解して三角形をつくることができる。	考		88.9	85		
		(2)	三角形を分解して三角形と四角形をつくること ができる。	考		92.6	80		
		(3)	四角形を分解して三角形をつくること ができる。	考		87.1	85		H15
		(4)	四角形を分解して三角形と四角形をつくること ができる。	考		80.2	80		H15
第4部 数量関係	12	(1)	資料のまとめ方が分かる。	表	78.5	87.2	90		H15
		(2)	表を基に を使ってグラフに表すことができる。	表		86.9	85		H15
		(3)	グラフのよみ方が分かる。	考		70.6	70		H15
	13	(1)	加減乗除の演算決定をすることができる。	考		69.3	70		H15

主な観点の欄は、考・・・「考え方」、表・・・「表現・処理」、知・・・「知識・理解」を表す。

第1部 数と計算 正答率(83.1%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)	
1	(1)	13	97.6	H15 98.3 類似	12(0.8) 42(0.6)
	(2)	31	97.4	H15 93.3 類似	32(0.6) 85(0.2)
	(3)	81	94.0	H15 93.4 類似	83(1.6) 84(0.4)
	(4)	702	86.9	H15 84.9 類似	504(3.4) 792(1.6)
	(5)	25	93.2	H15 94.7 類似	35(0.8) 24(0.4)
	(6)	80	90.9	H15 91.9 類似	70(1.2) 120(0.6)
	(7)	58	88.8	H15 87.3 類似	110(1.4) 62(1.0)
	(8)	336	76.3	H15 75.2 類似	436(3.4) 346(2.6)
	(9)	28	94.9	H15 94.9 類似	24(1.6) 32(0.6)
	(10)	50	95.7		2(2.6) 6(0.2)
	(11)	6	97.0	H15 97.3 類似	320(0.2) 6006(0.4)
	(12)	4	96.7		7(0.8) 24(0.2)
2	(1)	イ	84.9		ウ(10.4) ア(1.2)
	(2)	エ	83.2		ア(9.2) イ(1.2)
3	(1)	370	65.0		37(7.0) 37000(3.6)
	(2)	40350400	67.4	H15 62.0 類似	4035400(3.0) 435400(3.0)
	(3)	860000	76.8	H15 74.4 類似	800006(3.4) 806000(3.2)
4	しき	$27 \div 3 + 21$	48.9	H15 45.1 類似	$21 + 27(11.2)$ $27 - 21(7.0)$
	答え	30	43.9	H15 44.1 類似	9(8.0) 6(4.0) 48(4.0)

<考察>

第1学年から第3学年の1学期までに学習する四則計算の基本的な計算力、数の大小比較、十進位取り記数法の理解、文章問題を解く力をみる問題である。

1の四則計算の問題については全体的に正答率が高い。しかし、昨年度同様に、2つの位で繰り下がりのある引き算の筆算問題では正答率が低く、十分に定着しているとは言えない。2の1万を超える数の大小比較の問題については、桁数に着目せずに数字の大きさを比べている誤答もある。3の1万を超える数の相対的な大きさや表記についての問題では、正答率が低くなっている。数のしくみや位取り記数法の原理が十分理解できていない。特に、大きな数で中に空位が出る数の表記の練習が不十分であることが考えられる。4の文章問題については正答率が5割を切っており、こうした文章問題を苦手としていることが分かる。傾向としては、問題場面を具体的にイメージできずに、文章問題に出てくる数字を順に式に当てはめて計算している誤答が多かった。

そこで、指導に当たっては、筆算の原理を再度確認しながら反復練習する機会を設けるなど、筆算の基本的な計算が着実に身に付くように継続的な指導を行う必要がある。その際、繰り下がりのある計算については、繰り下げた数字を忘れないように式に書き込ませるなど、丁寧に計算する態度を身に付けさせることも必要である。そして、1万を超える数については、視覚的に理解を深めていくことができる教材・教具を準備したり、操作活動を積極的に取り入れたりして、数の感覚を豊かにしていく必要がある。また、具体物ではとらえにくい大きな数のイメージを、コンピュータソフトを利用して視覚的に理解させるなどの工夫も効果的である。文章問題の指導においては、問題文の意味を的確にとらえさせることが必要である。そのためには問題場面を具体的にイメージして図や絵に表す活動や、式と答えの意味を話し合う活動を取り入れる必要がある。

第2部 量と測定 正答率(71.0%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
5	9cm3mm	72.0	H15 71.2 類似	9 3 cm (3.2) 9 cm 4 mm (2.0)
6	(1) 式 8cm7mm + 3cm	82.3	H15 80.9 類似	8 + 7 + 3 (2.2)
	(1) 答え 11cm7mm	66.5	H15 65.2 類似	18cm (5.0) 90cm (3.0)
	(2) 式 800m + 700m	94.8	H15 56.5 類似	800m - 700m (1.0) 800m + 70m (0.2)
	(2) 答え 1km500m	66.0	H15 57.1 類似	1km5m (6.4) 1500m (5.0) 1k500m (2.6)
7	(1) k m	76.5		m (7.0) k (6.4)
	(2) ℓ	77.6	H15 72.7 類似	c m (3.2) dℓ (3.0)
	(3) c m	83.2		mm (7.0) dℓ (3.0)
	(4) ml	82.2	H15 42.1 類似	dℓ (10.2) mm(5.0)
8	(1) 4 5分	63.7		5 0 (3.2) 5 5分 (2.2)
	(2) 午前9時25分	58.4	H15 56.8 類似	9時20分(2.8) 9時15分(2.0)
	(3) 4時間30分	28.6		5時間30分(6.2)

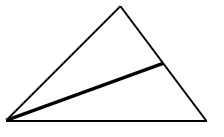
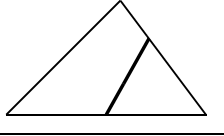
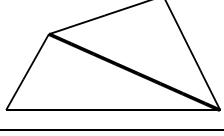
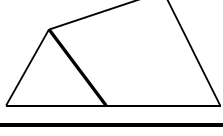
<考察>

長さの測定の能力、長さやかさに対する量感や時刻、時間を求める力をみる問題である。

5の長さを測る問題では、30cmものさしで正しく長さを測ること、目盛りを読むことが70%にとどまっている。6の長さや距離を計算で求める問題では、昨年度に比べ、特に(2)の正答率が上昇している。これは、文章問題の解釈の難しさの違いと、差と和の違いからきていると思われる。また、80%以上の児童が立式はできるが、正しく解答しているのは60%であった。これは、mm、cm、mなどの単位の理解や単位換算の理解が不十分であることが原因であると考えられる。7の単位を記入する問題では、昨年度に比べ、mlの正答率が上昇している。これは、各学校において昨年度の基礎学力調査結果を基に、指導が徹底した結果であると思われる。cmやmなど日常生活でよく使われる単位の正答率は80%を超えているが、kmやℓは80%に満たない正答率である。また、長さの単位で答える問題をかさの単位で答えるなど、単位の意味を十分に理解できていない児童もいる。8の時刻や時間を求める問題では、全体的に正答率が低い。特に8時 分～9時 分というように、正時を超えての時間経過を考える場面で、正時までの時間に正時からの時間を加えて答えを求める考え方が十分に身に付いていない。

そこで、指導に当たっては、長さの測定では、ものさしを使って長さを測る活動を日常的に取り入れ、mm、cm、mの量感を正確にとらえさせることが大切である。単位については、単位の意味や表記の仕方を正確に理解させるとともに、それらの単位が身の回りでどのように使われているのかを、具体物や写真などを使って理解させることが大切である。また、長さの単位とかさの単位を区別させる手立てとして、教室の掲示を工夫したり、特設コーナーを設置したりして日頃から量感を養うことが必要である。時間については、時計の模型を使った練習を多く取り入れ、まず正確に時刻をよむことや、1時間=60分であることを身に付けさせるとともに、生活の中で時間の経過を意識させるような、教師による言葉かけをすることも有効である。また、コンピュータソフトが多く開発されていることから、それらを使って視覚的に理解させることも有効である。

第3部 図形 正答率(84.2%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)	
9	(1)	8	79.8	H15 89.0 類似	5(3.6) 7(3.0) 4(2.2)
	(2)	10	69.4		8(4.0) 3(3.0)
10	三角形 ア	89.5	H15 93.1 類似	キ(1.8) オ(0.4)	
	四角形 オ	86.4	H15 85.3 類似	ウ(0.8) エ(0.8)	
11	(1)		88.9		定規未使用(2.4) 2本の線をかいている(0.6) 三角形と四角形(0.4)
	(2)		92.6		定規未使用(2.8) 2本の線をかいている(1.2)
	(3)		87.1	H15 87.6 類似	定規未使用(2.8) 2本の線をかいている(1.6)
	(4)		80.2	H15 85.3 類似	定規未使用(1.8) 2本線をかいている(0.6)

<考察>

三角形と四角形の構成と分解の力や図形を弁別する力をみる問題である。

9の三角形の色板の数を数える問題については、昨年度に比べ正答率が10ポイント下がっている。これは、昨年度は教科書に合わせた問題であったのに対して、本年度は、昨年度の問題とは逆の発想で数える問題であったからと思われる。与えられた形から三角形の色板をイメージすることができず、三角形と四角形を混同して数えている誤答が多かった。10の三角形及び四角形を弁別する問題については、昨年度と同様に正答率は高かった。しかし、昨年度と同様に、曲線を含む図形も三角形や四角形と認識している誤答が見受けられた。11の直線をかき入れて指定された図形を作る問題については、昨年度とほぼ同じ程度の正答率であったが、定規未使用による誤答が多かった。準備物についての事前指導とテスト前の指示の徹底が必要である。

そこで、指導に当たっては、図形について理解させたり、図形の性質を見いださせたりするために、形作りをしたり、模様作りをしたりするなどの体験的な活動や操作的な活動の時間を十分にとることが必要である。その際、作業的な活動に終始することなく、作成した図形について教師の発問や児童相互の話し合いなどによって、図形についての見方や感覚を磨いていくことが大切である。そのような経験を踏まえながら、補助線を引いたり、念頭で操作をしたりすることができる力を身に付けさせていきたい。さらに、その活動が今後どのような学習につながっていくのかを整理した上で、系統的に指導していく必要がある。また、定規で直線を引くなどの基本的な操作活動も丁寧に行わせることが大切である。

2 小学校第5学年

(1) 国語

分析結果の表記について

「小問ごとのねらいと正答率」の評価の欄の については、県正答率と予想正答率との差を記号化して示している。

- 1 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上高いもの………
- 2 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上低いもの………
- 3 1と2の間にあるもの ……………

「小問ごとのねらいと正答率」の比較の欄の「H15」「全国」「H14」については、過去の基礎学力調査問題や全国教育課程実施状況調査問題と同一問題、類似問題であることを示している。

- 1 H15 ~ 平成15年度基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 2 H14 ~ 平成14年度の小学校第3学年の基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 3 全国 ~ 平成13年度全国教育課程実施状況調査問題と同一または類似問題

正答率と誤答率は、抽出調査した全人数に対する割合を表している。

誤答例については、抽出調査した中で、割合の高かったものを中心に記載している。

(1) 国語

調査問題の構成とねらい

- ・ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」及び[言語事項]に関する基礎的・基本的な知識や能力をみる問題とした。
- ・ 「聞き取り」、「物語」、「説明文」、「ことば」、「作文」の5部構成とし、基礎的・基本的な内容について、特定の分野や内容に偏ることのないように、広い範囲から出題した。

平均点 76.9点

小問ごとのねらいと正答率

大問	分野	小問	内容・ねらい	主な領域・事項	大問別正答率	小問別正答率	予想正答率	評価	比較
一	聞き取り	1	大意の把握	文脈を踏まえて話の概要を聞き取ることができる。	話聞	77.2	99.5	95	
		2	あ 要点の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞		58.0	85	
		い 要点の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞	86.9		85		
		3	ア 要点の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞		71.6	80	
			概要の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞		79.2	85	
		4	概要の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞		53.2	80	
			概要の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞		92.3	90	
二	物語	1	内容把握	文脈を踏まえて場面の様子を理解することができる。	読	85.1	77.3	80	
		2	内容把握	文脈を踏まえて心情を理解することができる。	読		72.8	80	
		3	内容把握	文脈を踏まえて心情を理解することができる。	読		81.2	80	H15
		4	内容把握	文脈を踏まえて場面の様子や心情を理解し、該当表現を指摘できる。	読		97.4	85	
						96.7	85		
三	説明文	1	内容把握	叙述の順序を正確に読み取ることができる。	読	82.8	75.5	75	H14
		2	内容把握	文脈を踏まえて指示語の表す内容をつかむことができる。	読		80.7	80	H15
		3	適語挿入(接続語)	文の意味や文章全体の意味内容を考えながら、適合する接続語を入れることができる。	読		86.5	80	H15
		4	適語抽出	文脈を踏まえて、当該表現を書きぬくことができる。	読		93.8	85	
			適語抽出	文脈を踏まえて、当該表現を書きぬくことができる。	読		96.1	85	
5	内容把握	文章の内容を的確におさえながら要旨をとらえ、自分の考えを表現できる。	読	64.3	75	全国			
四	ことば	1	(1) 筆順	正しい筆順で書くことができる。	言語	70.8	67.5	75	H14
			(2) 筆順	正しい筆順で書くことができる。	言語		30.0	50	
		2	(1) 漢字の読み	小学校5年生(上本)までに学習した漢字を読むことができる。	言語		86.7	85	
			(2) 漢字の読み	小学校5年生(上本)までに学習した漢字を読むことができる。	言語		88.2	90	全国
			(3) 漢字の読み	小学校5年生(上本)までに学習した漢字を読むことができる。	言語		96.4	90	
		3	(1) 漢字の書き	小学校4年生までに学習した漢字を書くことができる。	言語		77.7	75	
			(2) 漢字の書き	小学校4年生までに学習した漢字を書くことができる。	言語		55.3	70	
			(3) 漢字の書き	小学校4年生までに学習した漢字を書くことができる。	言語		82.7	80	H14
		4	(1) 文の構成把握	主述の関係を理解し、指摘できる。	言語		58.2	70	H15
			(2) 文の構成把握	主述の関係を理解し、指摘できる。	言語		66.4	80	H15
		5	(1) 反対語の把握	反対語を正しくとらえることができる。	言語		54.4	70	全国
			(2) 反対語の把握	反対語を正しくとらえることができる。	言語		93.7	90	
		6	(1) ローマ字表現	簡単なローマ字の書きができる。	言語		35.3	60	H15
(2) ローマ字表現	簡単なローマ字の読みができる。		言語	82.2	80	H15			
7	辞書の活用	国語辞典の使い方を理解している。	言語	88.0	85				
五	作文	条件作文	伝える相手や目的を意識して文脈の通った文章を書くことができる。	書	78.4	78.4	75		

主な領域・事項は、話聞...「話すこと・聞くこと」、書...「書くこと」、読...「読むこと」、言...「言語事項」を示している。

一 正答率 (77.2%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	びゅんびゅんご まの作り方に	99.5	一つめに (0.2)
2	あ	58.0	あつ紙(5.2)ダンボール(4.2)無解答(6.6)
	い	86.9	ダンボール(1.6)あつ紙(1.4)無解答(1.6)
3	対角線	71.6	線(5.0)たこ糸(1.0)無解答(3.2)
4	右から	×	79.2 (2.2) 無解答(6.8)
	順に	×	53.2 (16.8) 無解答(7.6)
			92.3 ×(2.8) 無解答(2.2)

<考察>

話の概要や要点を正しく聞き取る力をみる問題である。

「聞く」力については、予想した正答率よりもやや低い結果となった。記述式である問2の「あ」と「い」とで正答率に差があるのは、びゅんびゅんごまの作り方について、大事な言葉をおさえながらイメージして聞く力が十分に身に付いておらず、びゅんびゅんごまを作るのに必要な物をつかむことはできても、びゅんびゅんごまを作るのに必要な物の形「正方形」まで、的確につかむことができなかつたためと考えられる。また、必要なことを正しく聞き取り、わかりやすくメモを取ることが十分にできていないため、記述式の問題では、無解答や内容に合わない答を書いている割合が高くなっていると考えられる。話し手がどのような目的や意図をもって話をしているのかを考えながら聞き、大事な言葉や内容の中心、要点は何かをつかむ能力を育成する必要がある。

そこで、指導に当たっては、話し手の意図や伝えたいことは何かを意識しながら、大事な言葉や要点を聞き取ることができるよう指導することが大切である。そのためには、大事な言葉を聞き取ることができるようにするための「メモの取り方」を身に付けさせなければならない。例えば、「何をメモするか」を教える指導として、メモを取らずに、集中して話を聞かせた後で、話の概要や要点について話し合う中で、何をメモすればよいか気付けさせるなどの指導が考えられる。

二 正答率 (85.1%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	草や木が一本も生えていなかったから	77.3		「ので」「から」を付けて答えていない(4.2) 山はだにじかにふりかかるのは、雨や雪だけ(3.4)
2	ウ	72.8		イ(12.4) エ(3.4) ア(2.8)
3	・小鳥がいなくなるとさびしくなる。 ・もっといっしょにいたい。	81.2	H15 81.0 類似	気持ちが表現できていない(1.8) 無解答(3.2)
4	エ	97.4		ウ(0.8) ア(0.6)
	ア	96.7		イ(0.8) エ(0.8)

<考察>

文脈を踏まえて、物語文の中で、登場人物の気持ちや場面の様子を的確に読み取る力をみる問題である。

問4の該当表現を指摘する問題は、かなり正答率が高く、登場人物がどのような気持ちでいるのかについて、大まかに想像することはできていると考えられる。しかし、問2の文脈を踏まえて登場人物の気持ちを想像する問題の正答率が低くなっている。これは、「わくわくして」という言葉に着目して読み取ることが、十分にできていないためと考えられる。問3の登場人物の心情を想像して書く問題は、昨年度とほぼ同程度の正答率である。誤答例をみると、気持ちを表現することができていないものや無解答が多い。昨年度も、本文をそのまま写して、登場人物の気持ちを自分の言葉で表現することができていない誤答が多かった。文脈に沿って人物の気持ちをとらえ、想像した考えを自分の言葉でまとめて書く力が十分に身に付いていないと考えられる。

そこで、指導に当たっては、「言葉」に着目して、主体的に心情や場面の様子を読み取らせることが大切である。そして、話合いの場面で、自分で考えたことを自分なりの言葉で整理して話す力を伸ばすとともに、「言葉」から広がる「想像することの楽しさ」を味わわせることが大切である。具体的に、次のような指導が考えられる。

情景などの表現に着目させるために、文章の必要な部分を詳しく読んだり、優れた表現を視写したりするなど、「言葉」との関連を意識できるようにする。

「言葉」を使った短文作りをしたり、副詞や助詞の使い方による意味の違いに気付かせたりして、「言葉」の意味を正しくとらえさせるようにする。

学習課題を明確にもたせ、ワークシートの記入やノートへの書き込みなどによる一人調べの時間の充実を図り、主体的な学習活動を展開する中で学ぶ楽しさを味わわせるようにする。

「この言葉から、～という気持ちが分かる」というように、「言葉」に着目した根拠のある発表の仕方を身に付けさせるとともに、友達の考えを聞き、多様な考え方にふれさせるようにする。

さらに、言語活動を組み込むよう配慮したり、主体的な読書活動に発展していくような指導の展開を工夫したりする必要がある。

三 正答率 (82.8%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	右から 5 3 4 2	75.5	H14 67.0 類似	4 5 3 2 (2.4) 5 4 3 2 (2.2)
2	やわらかい土 の中	80.7	H15 57.0 類似	小さな部屋をつくり (4.8) 自分が動けるだけ (4.0)
3	イ	86.5	H15 65.4 類似	エ (3.0) ウ (1.6)
4	(1) 水量がほうふ	93.8		水量ほうふな (0.6) いつもきれい (0.6)
	(2) コケ	96.1		こけ (0.6) 無解答 (0.8)
5	ホタルの生き られるかんき ょうをとりも どすことが必 要である。	64.3	全国 79.5 類似	「かんきょう」「ホタル」のことばを使 っていない (7.0) 自分のことばで述べていない (3.8)

<考察>

説明的な文章の内容について、的確に読み取る力をみるとともに、文章の構成に関する理解の状況をみる問題である。

問4の、文脈を踏まえて大事な言葉を書き抜く問題では正答率が高くなっている。また、問2の指示語の内容を的確にとらえる問題や問3の適切な接続語を入れる問題でも、昨年度に比べて正答率が高くなっている。これは、素材文が比較的読み取りやすいものであったことや、答えとなる接続語「そして」が、日常よく使うものであったことによると考えられる。しかし、指示語に関する問いでは、指示語の後に出てくる言葉を答えている誤答例がある。指示語の役割を正しく知らせ、指示語の示す内容を正しくとらえることができる力を養う必要がある。問1の叙述の順序を正確に読み取る問題では、第3学年時の問題に比べて正答率が高くなっている。これは、学習の積み重ねによる成果であると考えられる。問5の文章の内容を的確におさえながら要旨をとらえ、自分の考えを表現する問題では、全国に比べて正答率が低く、「かんきょう」「ホタル」の言葉を使っていないという誤答や、自分の言葉で述べていないという誤答がある。文章の内容を踏まえて、自分の言葉で表現する力が十分に身に付いていないと考えられる。

そこで、指導に当たっては、説明的な文章の基本的な論の構成、接続語や指示語、文末表現などの説明的な文章の特徴をとらえさせることを大切にする必要がある。具体的に、次のような指導が考えられる。

題名や冒頭段落部分から説明内容に対する関心を深めさせる。

段落の要点、段落相互の関係、小見出しの付け方、要旨の把握など説明的な文章の学習方法を身に付けさせて、読解の能力を育てる。

できるだけ簡潔に要旨をまとめたり、筆者の考えや意見に対する自分の考えをまとめたりする学習を通して、自分の考えを自分の言葉で表現する力を育てる。

さらに、読書指導において、説明的な文章に親しませるよう配慮する必要がある。

四 正答率 (70.8%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	(1) 八	67.5	H14 87.0 同一	九(17.0)十(2.0)
	(2) 四	30.0		九(13.8)六(8.4)
2	(1) ころご	86.7		しめ(0.8)ころごす(0.6)
	(2) もくじ	88.2	全国 92.9 同一	目を「もく」と読んでいない(1.6) 無解答(5.4)
	(3) よこぶえ	96.4		横を「よこ」と読んでいない(1.2)
3	(1) 整える	77.7		送りがなの間違い(2.0)
	(2) 包帯	55.3		句帯など「包」の間違い(2.8) 包体(2.2)
	(3) 新聞	82.7	H14 57.0 同一	新聞など「聞」の間違い(3.0)
4	(1) イ	58.2	H15 64.2 類似	オ(11.0)ウ(6.4)
	(2) カ	66.4	H15 79.3 類似	オ(12.4)エ(3.6)
5	(1) エ	54.4	全国 88.7 類似	イ(19.4)
	(2) ウ	93.7		ア(1.8)
6	(1) ringo	35.3	H15 54.0 類似	大文字と小文字がまざっている(3.6) 無解答(16.2)
	(2) つくえ	82.2	H15 69.0 類似	無解答(9.2)
7	右から	88.0		と が逆(5.2)

<考察>

言語事項の学習内容について、定着状況を見る問題である。

漢字の読みの正答率は比較的高い。また、問3の漢字の書きの③については、第3学年時よりも高くなっており、漢字の書きの練習の積み重ねによる成果であると言える。しかし、言語事項については、他の大問に比べて正答率が低くなっている。問1の筆順の問題の①については、第3学年時よりも低くなっており、筆順の定着は十分ではないと言える。問2の漢字の読みの②については、全国に比べてやや低い。音読みと訓読みを理解させ、正しく読むという意識を高める必要がある。問4の主語と述語の関係をとらえる問題では、主語・述語ともに、昨年度に比べて正答率が低くなっている。述語に比べて主語をとらえる問題の正答率が低く、主語と述語との関係を的確にとらえる力が十分に身に付いていないと言える。問5では、「前進」の反対語の「後退」をとらえる問題の正答率が全国に比べてかなり低く、漢字の意味を考えて熟語の意味をとらえる力が十分に身に付いていないと言える。問5のローマ字の読み書きの問題についても、昨年度に比べて正答率が低くなっており、特にローマ字の書きの正答率が低い。簡単なローマ字の読み書きの力が十分に身に付いていないと言える。

そこで、指導に当たっては、次のような工夫が考えられる。

漢字については、新出漢字の指導の際に空書きをさせたり、漢字の意味を押さえたりする。また、繰り返し学習においては、読み書きの練習だけでなく、筆順の問題も取り入れる。さらに、書写の時間の充実を図る。

熟語の意味を漢字の意味から類推させたり、同義語や反対語を考えさせたりするような、楽しく言葉を学習する場を設け、言葉への関心を高め、語彙力を伸ばす必要がある。

主語と述語の関係については、読みの学習の中で意識させる時間を確保したり、問題プリントを作成して復習させたりして、その定着を図る。

ローマ字については、諸学習活動でローマ字にふれる機会を利用して、正しく読ませたり書かせたりして、ローマ字に親しませる。

五 正答率 (78.4%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
五	省略	78.4	3つの条件が満たされていない(9.0) 字数の過不足がある(5.4)

<考察>

与えられた条件をもとに、伝える相手や目的を意識して文字言語で表現する力をみる問題である。

誤答例を見ると、3つの条件が満たされていないものが多い。書く必要のある事柄を整理して書く力が十分に身に付いてないと考えられる。

そこで、指導に当たっては、相手意識や目的意識を明確にし、多様な文章を書く機会を与えることが必要である。そのためには、書きたいことや伝えたいことは何かを明確にして書くことを具体的に指導するとともに、簡潔にわかりやすくまとめるという学習経験の場を増やすことが必要となる。具体的に、次のような指導が考えられる。

短作文指導において、教師から共通の題材を与え、書くための視点を明確にもたせて書かせるような機会をもち、書くことへの関心を高めるようにする。

相手に自分の気持ちや考えを述べている文例を紹介したり、お互いの表現の仕方について話し合ったりして、表現の仕方を学ぶ場をもち、表現することの楽しさを感じ取らせる。

正しい表記の仕方をまとめたものを掲示し、常に意識させるような環境づくりをするとともに、誤字・脱字をなおしたり、句読点を正しく打ったりするような学習活動を設定し、児童自身で推敲できる力を身に付けさせる。

2 小学校第5学年

(2) 社会

分析結果の表記について

「小問ごとのねらいと正答率」の評価の欄の については、県正答率と予想正答率との差を記号化して示している。

- 1 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上高いもの………
- 2 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上低いもの………
- 3 1と2の間にあるもの ……………

「小問ごとのねらいと正答率」の比較の欄の「H15」「全国」については、過去の基礎学力調査問題や全国教育課程実施状況調査問題と同一問題、類似問題であることを示している。

- 1 H15 ~ 平成15年度基礎学力調査問題と同一または類似問題
 - 2 全国 ~ 平成13年度全国教育課程実施状況調査問題と同一または類似問題
- 正答率と誤答率は、抽出調査した全人数に対する割合を表している。
誤答例については、抽出調査した中で、割合の高かったものを中心に記載している。

(2) 社会

問題の構成とねらい

- ・ 社会科の理解力、思考力、判断力に関する基礎的・基本的な知識や能力をみる問題とした。
- ・ 写真や地図、グラフ、図などの様々な資料を使って活用する能力をみたり、記述式の問題では児童の多様な考え方や態度、表現力をみる問題とした。
- ・ 問題の構成については [1] ~ [3] までは第3学年 [4] ~ [8] までは4学年の内容を中心に、[9] ~ [11] までは第5学年の内容を中心に構成し、特定の学年や分野等に偏らないように配慮した。

平均点 69.1

小問ごとのねらいと正答率

大問	小問	ね ら い	観点	大問別 正答率	小問別 正答率	予想 正答率	評価	比較	
[1]	1	地図から、市の特徴をよみとることができる。	思・判	65.8	76.1	80			
	2	地図上での方角を理解し、活用できる。	技・表		54.3	70		H15	
	3	(1)	地図中の基本的な地図記号を理解している。		知・理	48.7	70		
		(2)			知・理	75.8	80		H15
		(3)			知・理	60.6	80		
4	定規を活用し、縮尺を参考にして、実際の距離を導き出すことができる。	技・表	73.6	75		H15			
5	市町村の様子を調べる方法を考えることができる。	思・判	71.6	70					
[2]	1	販売の仕事に携わっている人々の工夫について理解している。	知・理	76.9	79.6	80			
			知・理		76.1	80			
2	販売の仕事に携わっている人々の工夫について、説明することができる。	思・判	79.4	80					
[3]	1	(1) 人々の様々な生活の様式が大きく変化してきていることを理解している。	知・理	90.1	96.3	90			
			知・理		95.8	90			
	2	資料を参考にしながら、人々のくらしの変化や工夫をよみとることができる。	思・判		77.8	80			
			思・判		96.9	85			
[4]	1	(1) 災害から人々の安全を守る身の回りの施設について理解している。	知・理	76.2	83.5	80			
			知・理		94.3	90			
			知・理		93.5	90		H15	
			知・理		95.9	95		H15	
	2	(1) 災害及び事故に対処するための関係諸機関の働きや体制について理解し、考えることができる。	思・判		64.5	70			
			思・判		38.5	70			
			思・判		84.0	90			
			思・判		62.8	80			
[5]	1	(1) 飲料水の確保のための対策や事業について理解している。	知・理	73.4	85.3	80			
			知・理		83.9	80			
	2	(1) 資料から水の使用量と人口の変化のかかわりについてよみとることができる。	技・表		38.7	65		H15	
			技・表		64.6	65		H15	
	3	(1) 廃棄物の処理と自分たちの生活とのかかわりについて考えることができる。	思・判		92.2	80			
			思・判		84.4	80			
[6]		宮崎県の発展に尽くした郷土の偉人について理解している。	知・理	47.3	47.3	65		H15	
[7]	1	(1) 宮崎県の市町村の数について理解している。	知・理	53.0	36.6	65			
			思・判		50.6	70			
	2	(2) 宮崎県から見た太平洋の位置について、地図をもとに確認することができる。	知・理		52.8	70			
			知・理		49.4	70			
3	自分の住んでいる市町村の位置を理解している。	知・理	71.3	70					
		知・理	57.3	70					
[8]		宮崎県の特徴について、グラフからよみとることができる。	思・判	66.7	88.9	70			
			思・判		73.6	70			
			思・判		55.5	70			
			思・判		48.6	70			
[9]	1	資料から米の生産量と消費量の変化をよみとることができる。	思・判	77.0	84.0	80			
			思・判		82.3	80			
			知・理		60.4	70			
			知・理		86.4	70			
2	おいしくて安全な米作りをするための工夫を理解し、説明することができる。	思・判	72.1	65					
[10]	1	(1) 日本の食料生産に関する資料をよみとり、事象を明らかにすることができる。	技・表	83.7	96.8	90			
			技・表		97.1	90			
2	日本の食料生産の現状を理解し、今後の日本の食料生産及び確保について自分の考えを表現することができる。	思・判	57.3	60		H15			
[11]	1	とる漁業のそれぞれの違いや特徴を理解している。	知・理	71.7	80.7	70		全国	
	2	(1) 200海里の漁業制限について理解している。	知・理		65.4	70		全国	
			思・判		50.9	70		全国	

思・判(社会的な思考・判断)、技・表(観察・資料活用の技能・表現)、知・理(社会的事象についての知識・理解)

1 正答率 (65.8%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	ウ	76.1		ア(10.0) イ(7.6)
2	イ	54.3	H15 70.6 類似	ウ(11.4) ア(8.8) エ(8.8)
3	(1) 消防しょ	48.7		市役所(7.2) 無解答(18.4)
	(2) 工場	75.8	H15 77.8 同一	店(2.4) 無解答(7.6)
	(3) 寺院(お寺)	60.6		神社(9.8) 無解答(3.6)
4	4 0 0	73.6	H15 88.2 類似	8 0 0 (2.0)
5	(例) 市役所に行って調べる。 図書館へ行って調べる。 副読本で調べる。 身近にいるくわしい人に 聞く。 インターネットで調べる。	71.6		地図, 地図帳(1.4) 無解答(5.2)

考察

第3学年の学習内容を中心とした問題で、地域の特徴や地図上の方位・距離、地図記号など、地図のよみとりについての問題、及び調べ学習における「調べる方法」についての問題である。

正答率をみると、方位や地図記号、縮尺などについての基本的な事項についての問題が、昨年と比べると低かった。特に方位については、八方位に関する出題であったが、昨年の四方位に比べ、正答率が低かった。また、3の地図記号に関しては、消防署・寺院の正答率が特に低く、昨年度に続いて出題された「工場」の記号についてもやや低くなっている。4の縮尺をもとに実際の距離を求めることや、5の調べ学習の方法については、ほぼ理解できていると考えられる。

そこで、指導に当たっては、地図を積極的に活用し、地図記号や方位などの基本的な事項を、繰り返し指導する機会を設ける必要がある。特に、地図記号については、その成り立ちや意味を考えさせたり、児童の住んでいる地域の白地図に、地図記号を書き込ませる活動を取り入れたりする。

2 正答率 (76.9%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	イ	79.6	ア(7.0) ウ(3.8)
	ア	76.1	ウ(7.0) イ(6.0)
	ウ	79.4	イ(5.4) ア(4.6)
2	ちらしなどをくばる。 広いちゅう車場をつくる。	72.3	無解答(4.8)

考察

第3学年の学習内容を中心とした問題で、スーパーマーケットにみられる販売の工夫について理解しているかをみる問題である。

正答率をみると、スーパーマーケットで働く人々の工夫が、買う人の願いと結び付いていることについて、理解が十分であるとはいえない。これは、働く人々の仕事の工夫のようすを、直接スーパーマーケットなどで目にする機会が少ないからではないかと思われる。自分たちの生活を支えている店の裏側での具体的な工夫までは、十分理解できていないことが分かる。

そこで、指導に当たっては、消費者である自分や家族の人たちの願いについて話し合わせ、それらの願いに働く人々がどのように応えているかという視点で見学や調査、作業的な活動を取り入れ、店で働く人々の様々な工夫について、具体的に学習させることが必要である。

3 正答率 (90.1%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	(1) オ ウ	96.3	ウ オ(0.6)
	(2) エ イ	95.8	イ エ(0.8)
2	油	77.8	まき(12.2)
	電気	96.9	まき(1.2)
	くふう	83.5	変化(6.6)

考察

第3学年の学習内容を中心とした問題で、地域の人々の生活様式が、およそ100年ぐらいの間にもどのように変わってきたかについて理解しているかをみる問題である。

正答率は比較的高く、道具の変化などの基本的事項は、ほぼ理解できていると考えられるが、昔の道具のしくみについての理解は十分とは言えない。

そこで、指導に当たっては、博物館や郷土資料館などで昔の道具を見学したり、学校の図書室で調べたり、地域に住む高齢者や保護者から生活に使用した古い道具の使い方などを教わったりするなど、調べ学習や体験活動を積極的に取り入れる必要がある。これらの学習により、過去の生活における人々の知恵や工夫に気付かせ、現在の自分たちの生活は祖先の努力の上に成り立っているということに関心をもたせることができると考える。

4 正答率 (76.2%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	(1) ア	94.3		ウ(3.8)
	(2) エ	93.5	H15 97.6 同一	ウ(3.2)
	(3) イ	95.9	H15 90.0 同一	エ(1.0)
2	(1) ウ	64.5		イ(14.4) ア(4.2)
	(2) イ	38.5		ウ(27.4) ア(5.2)
	(3) ア	84.0		イ(6.6)
	(4) イ	62.8		ア(14.8) ウ(7.2)

考察

第4学年の学習内容を中心とした問題で、災害や事故から人々の安全な暮らしを守る消防設備や、関係機関に従事している人々の働きや体制について理解しているかをみる問題である。

1の身の回りの消防設備については、昨年度と比較すると(2)の非常口のはたらきはやや低くなり、(3)の消火器のはたらきについては高くなっている。いずれも高い正答率を示しており、よく理解できていると考えられる。2の関係機関に従事している人々の働きや体制については、正答率が低く、誤答例をみると、警察署の働きと消防署の働きについて混同している。特に、火事が起きたときの、関係機関の連携や役割の分担についての理解が、不十分であると考えられる。また、けが人や病人の救急車で輸送や日常の防火活動への努力や工夫など、消防署のはたらきの中で火災を消す以外のはたらきが十分理解できているとは言えない。

そこで、指導に当たっては、実際に施設見学を行う際に、調べる視点を明確にさせることや、働く人々の努力や工夫について着目させて、施設面だけでなく、関係機関の協力の様子についても理解させる必要がある。また、関係機関の連携体制については、図で表現させたり、自分の考えや思いを書かせたりして、身近な生活と関連付けながら学習内容の定着を図ることが大切である。

5 正答率 (73.4%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	ウ	85.3		オ(3.6) 記号以外(3.0)
	オ	83.9		イ(3.6) 記号以外(2.8)
2	7	38.7	H15 59.7 類似	6(25.4) 4(3.2)
	人口	67.9	64.6 H15 80.8 類似	水の使用量(11.0) 水(4.8)
	水の使用量	61.2		人口(16.0) 水(5.0)
3	(1) イ	92.2		ア(2.4) ウ(2.0)
	(2) ア, ウ	84.4		エ(3.6) イ(2.6)

考察

第4学年の学習内容を中心とした問題で、1と2は飲料水の確保について、需要の増加に対して水源を確保するための森林保全との関係を理解しているかをみる問題、3は廃棄物の減量やリサイクルについて理解しているかをみる問題である。

1は、飲料水確保のための森林のはたらきについての問題であるが、おおむね理解できていると考えられる。2は、資料から水の使用量と人口の変化の関わりについてよみとる問題である。2の は、昨年度よりも正答率が低かった。これは、グラフを比較する際に は の何倍という見方ができていないことや、適切なグラフの活用が不十分であったことなどが原因と考えられる。2の については、グラフをよみとり、それをもとに思考・判断する力が不十分であることが分かる。3については、ごみの減量化やリサイクル活動に関しておおむね理解できていると考えられる。

そこで、指導に当たっては、資料のよみとりだけではなく、よみとったことから何が分かるかを考えさせ、発表の場を設定する必要がある。また、一つの資料からだけでなく、他の資料と関連させながら考えさせ、資料をよみとる力や考える力を育てることが大切である。読解力や計算力については、他教科との連携を図った指導が必要である。また、見学や調べ学習を積極的に取り入れ、分かったことを図式化したり、グラフ化したりする活動を通して、自分たちの生活との関連を理解させる必要がある。

6 正答率 (47.3%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
	小村寿太郎, 石井十次 岩切章太郎など	47.3	H15 33.3 同一	無解答(25.6)

考察

第4学年の学習を中心とした問題で、地域の人々の生活の向上に尽くした先人について理解しているかをみる問題である。

昨年度と比べると正答率は高くなっているが、無解答が多い。誤答例としては、総理大臣の名前などがあり、郷土の偉人を身近な存在として認識していない傾向がみられる。

そこで、指導に当たっては、郷土の偉人についての学習を積極的に行う必要がある。自分の住んでいる地域や近隣の市町村の偉人について取り上げたり、県版の副読本や「ひむか学」(<http://www.pref.miyazaki.jp/kyouiku/kikaku/himukagaku/>)等を活用したりして、児童が主体的に調べる学習を充実させる必要がある。

7 正答率 (53.0%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	(1)	4 4	4 5 (10.2) 無解答(6.4)
	(2)	東	西(10.4) 南(6.4)
2	(地図中に自分の住んでいる市町村をとらえて鉛筆でぬる。)	52.8	無解答(20.4)
3	エ	49.4	ア(20.2) イ(5.6)
	イ	71.3	エ(7.0) ウ(4.6)
	ア	57.3	エ(15.2) イ(4.8)

考察

第4学年の学習内容を中心とした問題で、本県の位置や市町村の数など基本的な事項について理解しているかをみる問題である。

1の(1)は、正答率が低かった。誤答例を見ると、45や43など正解に近い数が多い。また、1の(2)も正答率が低かった。誤答例では西や南と答えたものが多く、地図上の方位の認識が不十分であると考えられる。2の問題では無解答が多かった。このことから、自分の住んでいる市町村の位置を地図上で理解できていない児童が約半数いる。3では隣県の位置について、3の の熊本県以外は正答率が低かった。

そこで、指導に当たっては、学習の中で地図帳を積極的に活用して、地図に慣れる活動を多く取り入れる必要がある。自分の住んでいる市町村や本県について、周囲との位置関係を把握させながら白地図等へ書き込ませるなどの作業を行わせ、地理的位置等を正しくとらえさせる指導が必要である。

8 正答率 (66.7%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	オ	88.9	カ(2.6)
	キ	73.6	ク(10.8)
	ア	55.5	ク(11.8) キ(7.6)
	エ	48.6	ウ(19.8)

考察

第4学年の学習内容を中心とした問題で、本県の大まかな特色を理解しているかをみる問題である。

は両方とも正答率が高く、これらについてはグラフや図をよくよみとっている。それに比べて、は正答率が低かった。今後は、グラフや図から特徴をつかむ力をさらに育てていくことが必要である。

そこで、指導に当たっては、グラフや図をよみとる学習の際に、口頭で答えさせるのではなく、自分の考えを書かせて、自分の考えをもとに話し合わせる中で、十分に思考を深めさせ、発表させるような指導が大切である。

9 正答率 (77.0%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	ウ	84.0	ア(2.2)
	キ	82.3	イ(5.0)
	カ	60.4	ア(18.2) ク(5.6)
	工	86.4	オ(3.8)
2	(例) たい肥を使う農家がふえた。 農薬をまく回数をへらした。 新しい品種を開発した。	72.1	薬を使う(1.0) ひりょうを使わない(0.8) 無解答(5.8)

考察

第5学年の学習内容を中心とした問題で、我が国の米づくりについてグラフをよみとり、米をつくるための工夫についての理解をみる問題である。

1は、正答率をみると資料のグラフの変化や事象をよみとる力はほぼ身に付いてきているが、の誤答例と正答率の低さから、基本的な語句の意味を正確に理解できていないと考えられる。

そこで、指導に当たっては、資料やグラフをよみとる学習をするとともに、米作りに係わる人々の努力や工夫について、地域の人々から直接話を聞くなどの調べ学習を取り入れ、調べたことをもとに考える場を設定し、人々の願いや工夫に気付かせる指導が必要である。

10 正答率 (83.7%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	(1) 米	96.8		
	(2) 大豆	97.1		
2	(例) 国内の自給のわりあいを高める。 世界じゅうからの輸入をふやす。	57.3	H15 42.7 同一	輸出する(0.4) 転作をすすめる(0.2) 無解答(8.2)

考察

第5学年の学習内容を中心とした問題で、我が国の食料事情をグラフからよみとり、これからの食料確保のための方策について、自分の考えを表現する力をみる問題である。

1については、正答率が高く、グラフのよみとりが正確にできていると言える。2の正答率については、昨年と比べ上昇しているものの、食料を確保していくための具体的な今後の方策について、自分の考えを表現する力が十分身に付いていない。

そこで、指導に当たっては、我が国の食料確保について、調べ学習などを通して課題を自分の身近な問題としてとらえさせ、自分の考えを発表させる場の設定を行うなど、主体的に課題を見つけ、解決していこうとする態度を養う指導が必要である。

11 正答率 (71.7%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	イ	75.1	80.7 全国 77.9 同一	ウ(5.8) ア(5.6)
	ウ	87.6		イ(5.2)
	ア	79.4		イ(6.0)
2	(1)	65.4	全国 54.1 同一	(10.8) (7.8)
	(2)	(例) 計画的に生産でき 収入を安定させるた め。 へってきた生産量 をふやすため。 とりすぎによって 資源をへらさないた め。	50.9 全国 54.0 同一	小さな魚はとらないようにする (5.0) 無解答(8.6)

考察

第5学年の学習内容を中心とした問題で、日本の漁業の特色や傾向を、資料やグラフからよみとる力をみる問題である。

1の「とる漁業」についての理解は、全国よりやや高い正答率であったが、誤答例から、3つの漁業形態を、正確に理解できていないと考えられる。2の(1)「200海里の漁業制限」については、全国よりかなり高い正答率であることから、日本の遠洋漁業の生産量の減少と200海里の漁業制限との関連についてはかなり理解できていると考えられる。(2)の「社会的事象の共通点を考えることができるか」についての問題は、全国と比べるとやや低い正答率であった。水産資源の確保という視点から、2つの漁業形態で働く人々のとりくみの共通点が理解できていないため、無解答や正解からかけはなれた解答が多かったのではないかと考えられる。自分の考えを記述する問題では、正答率が低下する傾向がみられる。

そこで、指導に当たっては、漁業に従事する人々の水産資源の保護や育成についての取組や、これからの漁業の在り方について、調べ学習を行わせたり、グラフや資料の変化から社会的事象をよみとらせたりする指導が必要である。単に語句を覚えさせるのではなく、社会的事象を理解させ、自分の考えを発表させるような場面を設定し、日頃から話し合い活動を充実させるなどの指導が望まれる。

2 小学校第5学年

(3) 算数

分析結果の表記について

「小問ごとのねらいと正答率」の評価の欄の については、県正答率と予想正答率との差を記号化して示している。

- 1 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上高いもの……
- 2 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上低いもの……
- 3 1と2の間にあるもの ……

「小問ごとのねらいと正答率」の比較の欄の「H15」「全国」「H14」については、過去の基礎学力調査問題や全国教育課程実施状況調査問題と同一問題、類似問題であることを示している。

- 1 H15 ~ 平成15年度基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 2 H14 ~ 平成14年度の小学校第3学年の基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 3 全国 ~ 平成13年度全国教育課程実施状況調査問題と同一または類似問題
正答率と誤答率は、抽出調査した全人数に対する割合を表している。

誤答例については、抽出調査した中で、割合の高かったものを中心に記載している。

(3) 算 数

問題構成とねらい

- ・ 4つの領域の基礎的・基本的な内容を，3つの観点からみる問題とした。
- ・ 身近なものを素材とし，興味・関心をもって取り組める問題とした。
- ・ 結果を予想したり，筋道を立てて考える力をみる問題とした。
- ・ 知識のみを問う問題に偏らないように，処理の方法や思考過程もみる問題とした。
- ・ 数学的な考え方や，算数の「よさ」を進んで活用しようとする能力をみる問題とした。

平均点 74.4点

小問ごとのねらいと正答率

領域	番号	内容・ねらい	主な観点	領域別 正答率	小問別 正答率	予想 正答率	評価	比較		
第1部 数 と 計 算	①	(1) 小数+小数の筆算ができる。	表処	75.9	63.9	60				
		(2) 小数×整数(2位数)の筆算ができる。	表処		77.0	80		全国		
		(3) 整数÷整数(わる数が1位数)の筆算ができる。	表処		76.3	70		H15		
		(4) 小数÷整数(わる数が2位数)の筆算ができる。	表処		75.4	75		全国		
		(5) わり進む筆算ができる。	表処		62.3	75				
		(6) 計算の順序を考えて計算できる。	表処		72.2	65		H15		
	②	(1) 1000億×10が1兆であることを理解している。	知理		78.6	70				
		(2) 10分の1にしたとき的小数点の位置の移動の仕方について理解している。	知理		90.4	75				
		(3) 小数の相対的な見方を理解している。	知理		94.7	70				
		(4) 10分の1の位までの概数で表すことができる。	表処		69.9	65				
		(5) 同分母の真分数，仮分数，帯分数の大きさを理解している。	知理		50.4	55		H15		
	③	(1) 小数の記数法を理解している。	知理		91.8	75		全国		
		(2) 小数の記数法を理解している。	知理		83.9	75		全国		
	第2部 量 と 測 定	④	(1) 1㎡の大きさを理解している。		知理	72.5	74.8	70		
			(2) 1cm ³ の大きさを理解している。		知理		71.6	70		
⑤		(1) 長方形の面積の公式を理解している。 長方形の面積の公式を利用して，辺の長さを求めることができる。	知理 表処	96.6	95					
		(2) 長方形，正方形の面積の公式を利用して，複合図形の面積を求めることができる。	考 え	63.3	70					
⑥		(1) 分度器を使って，90°より大きい角の大きさを測定することができる。	表処	62.4	65					
		(2) 分度器を使って，180°より大きい角を作図することができる。	表処	83.4	80					
第3部 図 形	⑦	コンパスと定規を使って正三角形をかくことができる。	表処	79.2	76.1	85				
	⑧	(1) 垂直な直線を指摘することができる。	知理		90.5	80				
		(2) 平行な直線を指摘することができる。	知理		93.6	80				
	⑨	(1) 四角形を2つの四角形に分けることができる。	考 え		94.1	90		H14		
		(2) 四角形を1つの三角形と1つの四角形に分けることができる。	考 え		78.0	75		H14		
	⑩	(1) 平行四辺形を理解している。 三角形の内角の和，平行四辺形の性質を利用して，角度を求めることができる。	知理 知理		77.3	80		全国		
(2) 球の直径を求めることができる。		考 え	39.8	55		全国				
第4部 数 量 関 係	⑪	(1) 折れ線グラフから数値をよみとることができる。	表処	76.8	95.3	95		H15		
		(2) 折れ線グラフの変化の様子をよみとることができる。	表処		75.2	75		H15		
		(3) 折れ線グラフから，最大値と最小値の差をよみとることができる。	表処		68.6	70		H15		
	⑫	(1) 伴って変わる2つの数の変化の特徴をよみとり，3，4，5段のときの周りの長さを求めることができる。	考 え		91.4	80				
		(2) 伴って変わる2つの数の対応の仕方をよみとり，その関係を言葉の式に表すことができる。	表処		54.1	65				
		(3) 伴って変わる2つの数の対応の仕方をよみとり，それをもとに，まわりの長さが54cmのときの段の数を求めることができる。	考 え		69.4	65				
	⑬	括弧を含む式が表す場面を適切に選択することができる。	考 え		79.5	70		H14		
	⑭	(1) 2つの観点で調べた2次元の表を使って，仲間に分けて	表処		78.1	70				
(2) 調べることができる。		考 え	79.2	70						

主な観点 ~ 考え...数学的な考え方や，表処...表現・処理，知理...知識・理解

第1部 数と計算 正答率(75.9%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	主な誤答例(%)	
1	(1)	8.2	63.9	0.82(7.6) 11.97(4.6)	
	(2)	103.5	77.0	全国76.5 同一	6.8(4.8) 10.35(1.4) 103.5(0.4)
	(3)	108	76.3	H15 70.5 類似	18(7.4) 180(5.6)
	(4)	1.9	75.4	全国76.6 同一	19(9.0) 無解答(1.2)
	(5)	0.24	62.3		24(8.8) 2.4(6.8) 無解答(1.6)
	(6)	18	72.2	H15 56.7 類似	26(11.6) 80(0.8) 無解答(1.2)
2	(1)	2兆	78.6		20000億(2.8) 無解答(2.0)
	(2)	5.63	90.4		563(2.8) 無解答(1.0)
	(3)	1.25	94.7		12.5(1.2) 125(0.8) 無解答(1.2)
	(4)	1.4	69.9		1.39(5.4) 1.400(1.8) 無解答(1.4)
	(5)	$2\frac{1}{3}$ $1\frac{5}{3}$	50.4	H15 45.2 類似	$2\frac{5}{3}$ $1\frac{1}{3}$ (12.2) $\frac{5}{3}$ $\frac{2}{3}$ $1\frac{1}{3}$ (2.6)
3	(1)	0.1	91.8	全国74.8 同一	1.0(1.6) 1.2(0.8)
	(2)	4.3	83.9		3.4(3.2) 4.4(2.2)

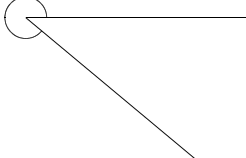
<考察>

1は、小数に関する計算の力をみる問題である。また、整数の計算の中から、間違いやすいものとして、商に空位がある場合の除法と四則が混合した計算の順序に関する問題を出題した。2、3は、小数の意味や表し方についての理解をみる問題を中心に、兆の位や四捨五入についての理解、分数の意味や大きさについての理解をみる問題も出題した。

小数の乗法・除法については、全国の正答率とほぼ同じであった。商に空位がある場合の除法や計算の順序については、昨年と比較して若干向上している。しかし、1の(1)の正答率が60%台であることから、小数の加法と乗法における小数点の処理の仕方の違いが十分に理解されていないことが分かる。また、(5)の除法においても、小数点の位置が正しくない誤答が多かった。2や3の結果からは小数の意味や表し方についてはよく理解されていることが分かる。特に、3では全国の正答率を大きく上回っている。2の(4)の四捨五入に関する問題では、「1/10の位」の意味を理解していないと思われる誤答が多かった。また、分数の大きさを比べる(5)の問題の正答率は、昨年度よりも向上しているものの50%台と低かった。昨年度同様、帯分数は大きいというイメージで判断し、仮分数に直して分子を比べるという習慣が身に付いていない。

そこで、指導に当たっては、小数点の処理の仕方についての指導を徹底させる必要がある。小数の計算に関する指導が一通り終わった後、加法と乗法の小数点の取り扱いについて比較し、その違いを明確にした上で、計算練習に取り組みさせるなどの工夫が考えられる。また、問題を見て答えに小数点だけ付けさせたり、1/10の位の数や1/100の位の数を付けさせたりする問題など、基本的事項を短時間で確認し復習するために、小テスト等の工夫も有効である。分数については、大きさをテープや水のかさなどの図で表したり、数直線上で示したりしながら、分数が表す大きさや意味を視覚的に理解させることが大切である。その上で、帯分数を仮分数、仮分数を帯分数に直す練習を十分に行わせるとともに、分数の大きさを比べさせる中で、帯分数より仮分数が大きくなる場面を意図的に取り上げ、「必ず帯分数の方が大きい」という間違ったイメージを取り除くことも必要である。

第2部 量と測定 正答率(72.5%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	主な誤答例(%)	
4	(1)	m ²	74.8	km ² (6.6) m(4.0) cm ² (2.2)
	(2)	cm ²	71.6	mm(5.4) cm(4.4) m ² (1.6)
5	(1)	2 4	96.6	1 2 (1.0) 1 0 (0.8)
		3	68.4	6 4 (4.2) 4 8 (3.0) 無解答(1.6)
	(2) 式	4 × 3 + 4 × 2 + 2 × 9 6 × 3 + 6 × 2 + 2 × 4 6 × 9 - 4 × 4 等	63.3	9 × 6 + 3 × 4 (1.4) 6 × 3 + 6 × 2 (1.0) 4 × 3 + 4 × 2 + 9 × 6 (0.8) 無解答(4.4)
		答え	3 8	4 2 (1.6) 3 0 (1.4) 無解答(3.8)
6	(1)	1 3 5	83.4	4 5 (2.8) 1 4 5 (1.0) 1 4 0 (0.8)
	(2)		59.5	無解答(4.4)

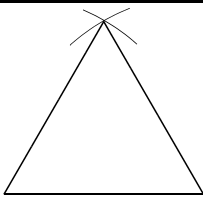
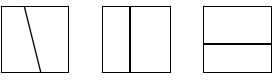



<考察>

4は、面積を表す単位についての理解と、面積についての量感をみる問題である。5は、長方形の面積の公式を用いて面積や辺の長さを求めたり、複合図形の面積を求めることができるかをみる問題である。6は分度器を用いて角の大きさを測ることや、180度を超える角の大きさを、180度や360度の角を利用して示すことができるかをみる問題である。

4の(1)では、km²とする誤答が多かった。体育館は広いというイメージからこれを選んだと考えられるが、単位正方形1 km²の大きさがよく理解されていないことが分かる。また、(2)ではmm, cmを選んだ誤答が多く、量感だけでなく、面積を表す単位についての基本的な理解が不十分な児童がいることが分かる。5では、(1)の において、縦と横の長さをもとに長方形の面積を求めることについてはよく定着していた。しかし、公式を逆に使って縦の長さを求める の問題では正答率が低かった。これについては、公式を活用できていないことの他に、問題文を正しく読み取っていないことも原因として考えられる。(2)では、図形を正しく分割できていないことによる誤答、与えられた数値から計算に必要なものを正しく選べなかったことによる誤答、求め方自体を理解していないと考えられる誤答など、様々な誤答が見られた。また、無解答も他の設問に比べて多かった。6の(1)は正答率が高かったが、目盛りを逆からよんだり、正確によみとることができない児童がいることが分かる。(2)では、直線=180度や、1回転=360度であることをもとに、「あと何度か」あるいは「何度足りないか」を考慮することができていない。また、明らかに180度よりも小さい角をかいている誤答もあり、角度についての量感が十分に育っていないことが分かる。

そこで、指導に当たっては、面積を測ったり、単位正方形をつくって敷き詰めたりする算数的活動を充実させることによって、面積についての感覚を豊かにすることが大切である。1 km²の大きさについては、学校周辺の地図上に1 km²の面積を示すなどして量感をつかませたい。長方形の面積の公式は、三角形や平行四辺形の面積を考える際の基礎となるものである。2辺の長さを与えて面積を求めさせるだけでなく、逆に、面積から縦や横の長さを求めさせるなど、公式を多面的に活用させることを通して確実に身に付けさせる必要がある。複合図形については、問題解決的な学習の中で、図形をどのように分ければよいかについて主体的に考えさせ、操作的な活動も交えながら、それぞれの考え方の違いやよさを理解させたい。その際、実際に補助線を引いて考えることの大切さを強調し、習慣付けていきたい。角の大きさについては、90度、180度、360度を目安として、見当付けをする習慣を身に付けさせたい。これによって、例えば、320度を180度+140度とみたり、360度-40度とみたりするなど、角の大きさに関する感覚を豊かにすることができる。

第3部 図形 正答率(79.2%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	主な誤答例(%)
7		76.1		正方形をかいている(5.4) 1辺が5cmになっていない(0.4) 無解答(1.6)
8	(1) アとオ	90.5		アとイ(1.8)
	(2) イとウ	93.6		アとオ(1.0)
9	(1)  など	94.1	H14 91 同一	 (1.0) 無解答(1.4)
	(2)  など	78.0	H14 66 同一	 (3.4) 無解答(4.6)
10	(1) 平行四辺形	77.3	全国76.1 同一	ひし形(2.6) 長方形(1.6) 無解答(4.4)
	1 1 0	39.8	全国54.2 同一	7 0 (5.6) 1 1 5 (5.4) 無解答(3.4)
	(2) 8	83.9		6 (1.6) 4 (1.4) 無解答(2.2)

<考察>

7は、正三角形の意味についての理解と、定規やコンパスを適切に用いて図をかきことができるかをみる問題である。8は直線の平行や垂直の関係についての理解をみる問題である。9は正方形を1本の直線で三角形や四角形に分ける問題で、第2学年の学習内容である。今回の調査対象児童が第3学年の時には、(2)の問題の正答率が66%と低かった。第5学年になって四角形についての理解や図形に対する感覚がどれだけ豊かになったかをみることをねらいとしている。10の(1)は平行四辺形を知っているかをみる問題、(2)は平行四辺形の性質や三角形の角の和についての性質を利用して角度を求めることができるかをみる問題である。

7では、正三角形ではなく正方形をかいている誤答が目立った。8の平行や直角についてはよく理解されていた。9では、四角形を長方形と同義にししかとらえていない児童は、(1)はできても(2)はできない。(2)ができるためには台形も四角形に含めて考える必要がある。(1)も(2)も3学年時に比べ正答率が上がっていることから、2年間の算数の学習を通して、図形に関する感覚が豊かになっていることがうかがえる一方、第5学年になっても、四角形を長方形や正方形とししかとらえていない児童が15%ほどいると考えられる。10では、(1)は全国とほぼ同じ正答率であったのに対し、(2)では全国を大きく下回る結果となった。平行四辺形の性質や三角形の性質が理解されていないというよりも、それらの知識が、問題解決の場面でうまく活用されていないことが要因と考えられる。

そこで、指導に当たっては、定規やコンパスを使って実際に図をかかせる活動を大切に、最初の辺をかきとるところから自分の力でできるようにするために、一斉指導とともに個別指導を充実させる必要がある。また、作図をさせるだけでなく、作図の仕方を自分の言葉でまとめさせるなどの取組も効果的である。四角形については第2学年で学習するが、個々の児童の概念の広がりにはかなりの個人差がある。平行四辺形やひし形、台形などいろいろな四角形を学習する中で、四角形の意味を再確認させていく必要がある。三角形の角の和や平行四辺形の辺や角などの図形の基本的な性質については、辺や角を重ねる、角を集める、敷き詰めるなどの具体的な操作を通し、実感をもって理解させることが大切である。それと同時に、図形をいろいろな方向から見たり、図形の中に図形を見出させたりする活動を通して、図形に関する感覚を豊かにする必要がある。

第4部 数量関係 正答率(76.8%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	主な誤答例(%)
11	(1) 1 8	95.3	H15 96.7 類似	1 7 (1.2)
	(2) 1 0時から1 2時の間	75.2	H15 73.1 類似	1 0時から2時(2.6) 1 2時から2時(2.0)
	(3) 1 1	68.6	H15 67.1 類似	8 (6.2) 1 2 (2.8) 1 3 (1.4)
12	(1) 9, 1 2, 1 5	91.4		1 2, 2 4, 4 8 (1.0)
	(2) $\boxed{\text{だんの数}} \times 3 = \boxed{\text{まわりの長さ}}$	54.1		$\boxed{\text{だんの数}} \times \boxed{\text{まわりの長さ}}$ (12.6) 無解答(4.6)
	(3) 1 8	69.4		1 6 2 (5.0) 1 7 (3.6) 無解答(3.2)
13	はなこさん	79.5	H14 47 同一	かずおさん(5.4) 無解答(3.4)
14	(1) 2 0	78.1		4 0 (6.6) 無解答(3.6)
	(2) 3	79.2		2 0 (2.4) 4 0 (1.8) 無解答(3.2)

< 考察 >

11は、折れ線グラフのよみとりに関して、(1)は値、(2)は変化の様子、(3)は最大値と最小値のよみとりができるかをみる問題である。12は、伴って変わる2つの数量の関係から変化や対応の様子をよみとり、問題解決に生かす力をみる問題である。(1)は表を横に見て、変化の様子をよみとれるか、(2)は表を縦に見て、対応のきまりをよみとり、それを言葉の式に表すことができるか、(3)は(2)でよみとった対応のきまりをもとに、段の数を求めることができるかをみる問題である。13は、括弧のある式の意味をよみとり、それにふさわしい場面を選択する問題である。第3学年時と比べて、式をよむ力がどの程度高まっているかをみるねらいがある。14は、二次元表の見方についての理解をみる問題である。

11の正答率は、昨年度とほぼ同じであった。(1)の正答率は高かったものの、(2)や(3)の正答率はやや低く、折れ線グラフから変化の様子をよみとり、考察することに関して課題が残っている。12では、表の横の関係から変化の様子をよみとることはよくできているが、表の縦の関係から対応の様子をよみとることに 대해서는正答率がやや低い。特に、数量の関係を言葉の式で表す問題の正答率が低い。13では、3学年時に比べて、括弧の意味の理解や式をよむ力が向上していることが分かる。日々の算数の学習においていろいろな式に接することを通して、このような力が高まってきたものと考えられる。誤答では、前回同様、「かずおさん」を選んだものが多く、括弧の前の - (ひく) がよみとれていないことが原因と考えられる。14については、全体的にはよく理解されているが、二次元表の見方を十分に理解していない児童もいることが分かる。

そこで、指導に当たっては、折れ線グラフをかく活動だけでなく、完成したグラフを考察する活動を重視する必要がある。大きく変化しているところや変化が小さいところなどについて問い、直線の傾きから変化の様子をよみとることができるようにすることが大切である。伴って変わる数量の関係を表からよみとる場合、表を縦に見て、上下の数の関係を見出すことに重点を置いた指導が求められる。この問題の場合、 $\boxed{\text{だんの数}} \times 3 = \boxed{\text{まわりの長さ}}$ であることを見出し、式に表すことで2数の関係を明確にとらえることができる。そのために、 $\boxed{\text{だんの数}}$ が50や100などの大きい数の場合で $\boxed{\text{まわりの長さ}}$ を考えさせ、表を縦に見たり、関係を言葉の式で表すことよさに気付かせる指導が必要である。また、言葉の式は、今後いろいろな場面で用いられることになる。面積の公式や比例の学習等において、言葉の式で表す活動を充実させることにより、言葉の式をつくったり、よみとったりすることに慣れさせる必要がある。式のよみとりや二次元表については、十分に理解できていない児童がいることを踏まえて、繰り返しの指導や個に応じた指導の充実を図る必要がある。

2 小学校第5学年

(4) 理科

分析結果の表記について

「小問ごとのねらいと正答率」の評価の欄の については、県正答率と予想正答率との差を記号化して示している。

- 1 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上高いもの………
- 2 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上低いもの………
- 3 1と2の間にあるもの ……………

「小問ごとのねらいと正答率」の比較の欄の「H15」「全国」については、過去の基礎学力調査問題や全国教育課程実施状況調査問題と同一問題、類似問題であることを示している。

- 1 H15 ~ 平成15年度基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 2 全国 ~ 平成13年度全国教育課程実施状況調査問題と同一または類似問題
正答率と誤答率は、抽出調査した全人数に対する割合を表している。
誤答例については、抽出調査した中で、割合の高かったものを中心に記載している。

(4) 理科

調査問題の構成とねらい

- ・ 3つの領域（生物とその環境，物質とエネルギー，地球と宇宙）の基礎的・基本的な内容の習得状況を見る問題とした。
- ・ 観察・実験や資料を基に，そのつくりや仕組み，働きなどを具体的に考えさせる問題とした。
- ・ 学習した知識を確実に身に付けているかをみる問題とした。

平均点 79.6点
小問ごとのねらいと正答率

大問	分野	小問	観点	内容・ねらい	大問別 正答率	小問別 正答率	予想 正答率	評価	比較			
1	生物とその環境	1	(1) 知	昆虫の体は，頭，胸，腹に分けられることを理解している。	89.0	95.8	90					
			(2)			88.4	85					
			(3)			87.8	80					
		2	知	チョウの育ち方には一定の順序があることを理解している。		90.1	85		H15			
			知	バッタの育ち方には一定の順序があることを理解している。		72.3	80		H15			
		3	技	昆虫の体について興味をもち，注意深く観察することができる。		88.8	75					
		4	(1) 技	食べ物やすみかを手がかりに，昆虫を探することができる。		95.4	80					
						89.4	75					
						87.9	80					
						93.9	75					
2	環境	1	(1) 知	条件の違う種子の発芽実験から，発芽するものとそうでないものを理解している。	77.1	95.9	90					
			(2) 思			実験方法から，種子の発芽に必要な条件を見付けることができる。	55.7	75				
		2	(1) 知	実験に使用する薬品の名称を理解している。		74.2	85					
			(2) 知	ヨウ素液で調べられる養分を理解している。		71.4	70					
		3	知	種子のつくりについて理解している。		80.9	90					
3	物質とエネルギー	1	知	磁石の異極が引き合い，同極がしりぞけ合う性質について理解している。	82.8	85.2	90					
			85.5			90						
			91.1			85						
2	技	身の回りの物には，磁石に引き付けられる物と引きつけられない物があることを理解している。	88.6	85								
	思	磁石に引き付けられる物は，鉄であることを理解している。	63.6	70								
4	エネルギー	1	(1) 技	身の回りの物には，電気を通す物と通さない物があることを理解している。	81.7	91.0	90					
			(2)			72.8	80					
			(3)			96.9	90					
		2	思	物には電気を通す物と通さない物があり，金属は電気を通す性質があることを理解している。		96.0	80					
			技	直列つなぎの回路を正しくつなぐことができる。		92.1	80					
3	技	直列つなぎの回路を正しくつなぐことができる。	41.5	70								
5	地球と宇宙	1	支点 力点 作用点	知	てこの3点の用語について理解している。	83.0	96.5	70				
							95.4	70				
							94.4	70				
		2	ア イ	思	てこがつり合う規則性について理解している。		89.4	90		全国		
							52.4	60		全国		
		3	知	てこの性質を利用している物を理解している。	62.5		70					
85.8	70											
87.4	70											
6	地球と宇宙	1	技	実験結果を正しく理解している。	66.1	37.3	60					
						73.3	70					
		2	(1) 知	日常生活の中に結露があることに興味・関心をもっている。		80.8	70					
						3	(1) 知	水は，冷やされると氷（固体）になることを理解している。	73.4	90		
							(2) 知	水蒸気は，冷やされると水（液体）になることを理解している。	70.7	70		
(3) 知	水は，あたためられると水蒸気（気体）になることを理解している。	61.1	70									
7	宇宙	1	知	気温について正しく理解している。	91.1	84.5	70					
						90.6	75					
		2	技	温度計を正しく使うことができる。		95.0	80		全国 H15			
3	(1) 知				晴れの日と曇りの日の気温の変化の特徴を理解している。	94.2	90					
		(2)										

主な観点の欄は，思…「思考」，技…「技能・表現」，知…「知識・理解」を表す。

1 正答率 (88.9%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)	
1	(1)	オ	95.8		ア(1.0) イ(0.4) エ(0.4)
	(2)	ウ	88.4		イ(3.8) エ(3.0)
	(3)	イ	87.8		ウ(3.2) ア(2.4)
2	チョウ	ア	90.1	H15 86.7 類似	イ(2.6) ウ(2.4) エ(2.4)
	バッタ	ウ	72.3	H15 78.9 類似	イ(6.8) エ(4.6)
3		イ	88.8		ア(3.8) ウ(1.8)
4	(1)	エ	95.4		ウ(2.6) ア(2.0)
	(2)	イ	89.4		ア(7.8) ウ(1.2)
	(3)	ア	87.9		イ(7.8) ウ(2.0)
	(4)	ウ	93.9		エ(2.6) ア(1.2)

< 考察 >

大問1は、昆虫の体のつくりや成長のきまり、食べ物やすみかについての知識や技能をみる問題である。

全体の正答率は約89%で、おおむねよく理解していると言える。ただし、問1と問2は、昆虫の体のつくりや成長のきまりを問う問題であるが、バッタの成長のきまりに関する問題では、チョウと比べて正答率が約20ポイント低くなっている。卵から成虫へ至るといふ昆虫の成長のきまりを、十分に理解していないことが分かる。これは、バッタは、チョウに比べて卵からの観察を行いにくいことが原因として考えられる。なお、この類似問題は、昨年度も出題されているが、昨年度と比べて、今年度は正答率が7ポイント程低くなっている。これは、今年度の設問の選択肢に「たまご」を省いた選択肢が新たに加わったことで、バッタの卵を見た経験のない児童がこれを選んでしまったと考えられる。問3と問4は、昆虫の体のつくり、食べ物やすみかについての技能をみる問題であるが、正答率は約90%と、おおむね良好な結果と言える。この問題は、実際に屋外に出て昆虫を探したり、観察したりするような体験がないと正答率は上がりにくく、学習や生活の中でこのような活動が充実していることが伺える。

そこで、指導に当たっては、屋外での観察などの体験的な学習を積極的に取り入れるとともに、チョウとバッタの比較観察など、複数の観察結果を比較しながら理解を深めさせる指導の工夫が必要である。また、観察に当たっては、卵から昆虫を育てる経験をさせる過程で、チョウやバッタ、セミなどの昆虫の絵を描かせたり、図鑑等で調べさせたりしながら、昆虫の特徴を理解させるような指導を工夫する必要がある。

2 正答率 (75.6%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	(1) イ	95.9	ア(4.8)
	(2) 空気	55.7	水(9.6) 温度(3.8) 日光(1.8)
2	(1) ヨウ素液	74.2	水(2.0) 養分(1.0) 誤字(5.8)
	(2) でんぷん	71.4	養分(1.8) 栄養(1.6)
3	根	80.2	芽(5.8) 実(2.0) 花(1.0)
	くき	84.4	
	葉	78.1	

< 考察 >

大問2は、インゲンマメを使い、植物の発芽と成長のための条件についての理解をみる問題である。

問1の(1)は、発芽するための環境条件を問う問題で平成14年度と同一問題であるが、正答率は約96%と高く、平成14年度の結果より約5ポイント上昇している。しかし、発芽のために必要な条件を問う(2)では、正答率が約56%と低い。この問題の誤答としては「水」が多いが、実験において、空気が有るか無いかという条件の違いを、的確に把握することができていないことが分かる。問2は、インゲンマメにふくまれている養分について問う問題で、平成14年度と同一問題である。正答率は、平成14年度の結果とほぼ同じ約71%であった。この結果から、でんぷんは、ヨウ素液を使用して調べることができるということを十分理解していないことが分かる。問3は、種子の一部分が何に成長するかを問う問題であるが、正答率は約81%で種子のつくりについておおむね理解していると言える。

そこで、指導に当たっては、観察・実験を学習過程の中に位置付けるとともに、児童に種子の発芽の条件として制御すべき要因と制御しない要因の区別を意識付けることが大切である。そのためには、比較実験の方法について単に提示するだけでなく、発芽の条件やそれを調べるための観察・実験の方法を児童に考えさせ、集団で練り上げていく学習過程が必要である。そして、児童の予想を基に、実験を通して確かめさせながら実感をともなった理解をさせることが大切である。また、重要な用語や試薬等については繰り返し確認し、定着を図る指導を行うことが必要である。

3 正答率(82.8%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	イ	85.2	ア(11.2) ウ(0.8)
	ウ	85.5	エ(13.6) イ(1.2) オ(1.2)
2	ア	91.1	ウ(3.0) イ(1.4)
	オ	88.6	イ(2.4) エ(2.4)
3	鉄	63.6	金属(17.8) 金物(3.2)

< 考察 >

大問3は、磁石を使って、磁石に付く物や磁石の働きを調べ、磁石の性質についての思考、技能・表現、知識・理解をみる問題である。

問1と問2は、磁石の極の性質と磁石に付くものを問う問題であるが、正答率は85%以上と高く、おおむね理解していると言える。しかし、問3の磁石が引き付ける物が何かを記述式で問う問題では、正答率が約64%と低い。この問題での誤答例をみると、金属や金物が多く、電気を通す性質がある物と磁石に付くものとの区別が明確でないことが原因と考えられる。

そこで、指導に当たっては、磁石の実験を通して、磁石の働きや性質についての理解を深めるとともに、磁石を使った物づくりや活動を通して、興味・関心をもてるように工夫することが必要である。また、磁石に付く物と電気を通す物の実験を通して、それらの性質を区別しながら理解させていくことや、磁石と電気の2つの単元終了時にそれぞれの学習内容を比較させ、磁石と電気の性質を明確にして理解させる必要がある。

4 正答率 (81.7%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	(1)	91.0	×(8.2)
	(2)	72.8	×(21.8)
	(3)	×	(1.2)
2	ア	96.0	イ(1.0)
	ウ	92.1	エ(6.8) イ(0.2)
3	省略	41.5	同じ極同士でつないでいる(8.4) 乾電池と乾電池がつながっていない(4.6) 並列つなぎにしている(2.8)

< 考察 >

大問4は、乾電池に豆電球などをつないで、電気を通すつなぎ方や電気を通す物を調べながら、電気の回路についての思考、技能・表現をみる問題である。

回路の作図以外は、全体的に正答率が高い。問1は、電気を通すものと通さないものを問う問題であるが、アルミニウムはくが電気を通さないという誤答が多い。問3は、第4学年の学習内容で、豆電球をより明るくするために、乾電池を2個使用した直列つなぎの回路を作図できるかを問う問題である。この問題は正答率が約42%と低く、誤答例をみると同極同士をつないで一つの回路にしているものや、2つの乾電池がつながっていないといったものが多くみられた。これは、2つの電池のつなぎ方が実験等の体験活動を通して十分理解できていないことが原因であると考えられる。また、並んだ2つの乾電池をどのようにつなぐかを、実験結果を基に作図する練習が不十分であると考えられる。

そこで、指導に当たっては、電気を通す物と通さない物について、身近にある物を使って調べさせる必要がある。特にアルミニウムに関しては、アルミニウムできている2、3種類の物を調べさせるようにするとよい。また、豆電球と乾電池のつなぎ方では、実験を通して様々な回路を実際に作成させたり、その際の回路をノートなどに作図・記録させたりして指導を行うことも必要である。さらに、見えない電気の流れやはたらきを視覚的なイメージでとらえやすくするために、モデル化した回路を取り入れるなど、教具等の工夫も重要である。

5 正答率 (83.0%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)	
1	支点	イ	96.5		ア(1.6) ウ(0.4)
	力点	ウ	95.4		ア(2.8) イ(0.6)
	作用点	ア	94.4		ウ(3.0) イ(1.4)
2	ア	30g	89.4	全国 65.0 類似	60g(2.5) 20g(2.0)
	イ	20g	52.4	全国 65.0 類似	30g(18.6) 10g(3.8)
3		ア	62.5		ウ(16.0) イ(5.8)
		オ	85.8		ウ(4.2) エ(1.6)
		カ	87.4		ウ(5.0) イ(3.0)

< 考察 >

大問5は、てこを使い、力の加わる位置や大きさを変えて、てこの仕組みや働きを調べ、てこの規則性についての考え方をみる問題である。

問1は、てこの働きの各部分の名称を問う問題であるが、正答率は約95%と高く、よく理解していることが分かる。問2は、つり合うときの規則性を問う問題で、全国問題と類似の問題である。アの問題のように支点から等距離の場合は、全国問題と比べ難易度に違いがあり、やや容易であるため正答率が高くなっている。しかし、イの問題のように支点からの距離が異なる場合は、全国問題と比較して正答率が13ポイント低くなっている。距離が異なる場合の規則性については、実験した結果を規則性としてとらえるまでの理解が不十分であることが分かる。問3は、てこを利用したものを問う問題であるが、はさみやパールのように支点が力点と作用点の間にあるものは正答率が高く、ピンセットのように力点が支点と作用点の間にあるような変則的なものは正答率が低くなっている。

そこで、指導に当たっては、てこの基本的な原理を押さえた上で、てこ実験器を使用し、自由に左右をつり合わせる活動を通して、てこがつり合うときの規則性を児童自ら発見させることで知識の定着を図りたい。また、てこの規則性については、練習問題を数多く行い、復習の機会をもつことにより定着を図りたい。さらに、学習や生活の中で使用されている道具等にも日頃から目を向けさせることが大切である。

6 正答率 (66.1%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)		
1	ウ	37.3	ア(29.8)	イ(20.2)	
2	(1) イ	73.3	ウ(8.2)	ア(7.4)	
	(2) エ	80.8	ウ(8.8)	ア(3.4)	
3	(1) 氷	73.4	固体(6.8)	水(2.4)	あたためる(2.0)
	(2) えき体	70.7	水(3.2)	水滴(3.0)	水体(2.0)
	(3) 気体	61.1	水蒸気(5.2)	空気(3.6)	水(2.2)

< 考察 >

大問6は、水が水蒸気や氷になる様子を観察し、温度と水の変化との関係などを調べ、水の状態変化についての知識・理解、技能・表現をみる問題である。

問1は、水を冷やしたときの温度の変化を問う問題であるが、正答率は約37%と低い。この問題では、温度が次第に低下していく「ア」のグラフを選んでいる誤答が多いことから、実験結果に基づく理解が十分でないことが分かる。問2は、結露について問う問題であるが、約80%近い正答率であり、結露と日常みられる自然現象とのつながりをほぼ理解していると言える。しかし、ウの「しも柱」という誤答も多く、空気中にある水蒸気がどのように結露していくか理解していないことが分かる。問3は、水の状態変化について総合的に問う問題であるが、(1)(2)が約70%、(3)が約60%の正答率である。特に(3)の正答率が低いのは、誤答に「水蒸気」、「空気」が多いことから分かるように、気体と水蒸気、空気のそれぞれの意味が十分理解されていないことが原因であると考えられる。

そこで、指導に当たっては、水の状態変化の様子を予想させ、予想と実験結果との違いを考察させながら、温度と水の変化の関係を理解させるようにする。その際、0 がしばらく続くことの意味を考えさせ、水の状態変化の特徴をとらえさせることが大切である。また、空気中に水蒸気があるということを、洗濯物が乾いたり、水たまりの水がなくなったりする自然蒸発の例を取りあげて理解を深めさせることが必要である。また、氷や水、水蒸気の実験や自然現象と関連させ、ワークシートや絵、図を使って児童自身がまとめることにより、水の状態変化の関係を的確に理解させることが大切である。

7 正答率 (91.5%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	イ	84.5		ア(10.8) ウ(1.0)
	エ	90.6		ア(3.8) ウ(3.0)
2	イ	95.0	錘 87.2 H15 96.7 類似	ア(2.4) ウ(1.0)
3	ア	94.2		イ(1.0)
	-	-		

< 考察 >

大問7は、気温についての知識や温度計を使った測定技能をみる問題である。

どの問題も80%以上の正答率で、基本的な事項については、ある程度定着していると言える。問1は、気温の測り方について問う問題であるが、気温を測る際の地面からの高さに関する誤答が多かった。気温を測るときの留意事項についての理解が十分でないことが分かる。問2は、温度計の見方を問う問題であるが、温度計の目盛りを垂直より上の方からみると答えた児童が2.4%ほどみられた。この問題は、全国問題及び昨年度問題の類似問題であるが、全国問題と比べると約8ポイント高く、昨年度の問題とは同程度である。

そこで、指導に当たっては、1日の天気の様子や気温の変化を温度計を使って観察させ、表やグラフ、図等にまとめさせることが大切である。さらに、まとめたことを基に、1日の天気や気温の変化について考察させることが望ましい。また、観察や実験器具の名称、使い方については、フラッシュカードや掲示物を利用して繰り返し指導を行い、定着を図ることが必要である。

小学校学習状況実態調査

1 調査内容

学習や生活についてのアンケート

() 立 () 小学校 () 年) 男・女

このアンケートは、みなさんの毎日の学習や生活の様子などについて調べるためのものです。テストではありませんので、あなたが思ったことをそのまま答えてください。

- 1 どのじゅぎょうがすきですか。すきなじゅぎょうの番号に をつけてください。いくつ をつけてもかまいません。

1 . 国語	2 . 社会	3 . 算数	4 . 理科	5 . 音楽	6 . 図画工作
7 . 家庭 (5 年生だけ)	8 . 体育	9 . 総合的な学習の時間			

- 2 学校のじゅぎょうはどのくらいわかりますか。次の教科について、あてはまるものを1つ選び、その番号に をつけてください。

(1) 国語	1 . よく分かる	2 . だいたい分かる	3 . 半分くらい分かる	4 . ほとんど分からない
(2) 社会	1 . よく分かる	2 . だいたい分かる	3 . 半分くらい分かる	4 . ほとんど分からない
(3) 算数	1 . よく分かる	2 . だいたい分かる	3 . 半分くらい分かる	4 . ほとんど分からない
(4) 理科	1 . よく分かる	2 . だいたい分かる	3 . 半分くらい分かる	4 . ほとんど分からない

- 3 国語、社会、算数、理科でどんなじゅぎょうがすきですか。あてはまる番号に をつけてください。いくつ をつけてもかまいません。そのほかのものがあつたら、() に書いてください。

1 . 先生が一人で学級のみんを教えるじゅぎょう	
2 . 先生が何人かで学級のみんをいっしょに教えるじゅぎょう	
3 . 学級がいくつかに分かれて、先生がそれぞれについて教えるじゅぎょう	
4 . コンピュータを使ったじゅぎょう	5 . じっさいに物を使って考えるじゅぎょう
6 . グループで話し合いながら考えるじゅぎょう	7 . 自分でノートにまとめながら考えるじゅぎょう
8 . ワークシートに記入しながら考えるじゅぎょう	
9 . そのほか ()	

- 4 学校や家で勉強してわからないことがあるとき、どのようにしていますか。一番多くしていることを1つ選び、その番号に をつけてください。

1 . 自分一人がんばる	2 . 友だちに聞く	3 . 家の人に聞く
4 . 学校の先生に聞く	5 . じゅくや家庭 教師 <small>かていきょうし</small> の先生に聞く	6 . そのままにしておく

- 5 家ではどのように勉強していますか。(1)~(3)について、あてはまるものを1つ選び、番号に をつけてください。

(1) 出された宿題をきちんとする。	1 . いつもしている	2 . だいたいしている	3 . たまにしている	4 . していない
(2) 家の人から言われなくても進んで勉強する。	1 . いつもしている	2 . だいたいしている	3 . たまにしている	4 . していない
(3) 自分がおもしろいと思ったことは、学校の勉強に関係なく調べる。	1 . よくする	2 . たまにする	3 . したことがない	

6 (1)と(2)についてあてはまるものを下の から1つ選び、番号で教えてください。

(1) 学校でじゅぎょうがある日、家でどのくらい勉強をしていますか。

(2) 学校が休みの日、家でどのくらい勉強をしていますか。

1.ほとんどしない 2.30分くらい 3.1時間くらい 4.1時間30分くらい
5.2時間くらい 6.2時間から3時間くらい 7.3時間より多い

(注 意)

学習じゅくで勉強する時間はのぞきます。家で家庭教師の先生などに勉強を教えてもらう時間は入れてください。

7 学習じゅくについてききます。

(1) 学習じゅくに通っていますか。あてはまる方につけてください。(そろばん, 習字, ピアノなどのおけいごとやスイミングなどのスポーツ活動はのぞきます。)

1.通っている 2.通っていない [通っていない人は8に進んでください]

(2) 学習じゅくに通っている人にききます。1週間に何日通っていますか。あてはまるものを1つ選び、その番号につけてください。

1.1日 2.2日 3.3日 4.3日より多い

(3) 学習じゅくに通っている人にききます。じゅくで1回だいたい何時間、勉強していますか。あてはまるものを1つ選び、その番号につけてください。

1.30分 2.1時間 3.1時間30分 4.2時間 5.2時間より多い

8 読書についてききます。

(1) 本を読むことは、好きですか。あてはまるものを1つ選び、番号につけてください。

1.とても好き 2.まあまあ好き 3.あまり好きではない 4.嫌い

(2) 1か月に、だいたい何さつくらいの本を読んでいますか。あてはまるものを1つ選び、番号につけてください。(歴史のまんがや科学のまんがなどは、入れてもかまいません。)

1.読まない 2.1さつ 3.2さつ 4.3さつ 5.4さつ
6.5~10さつ 7.10さつより多い

9 学校が休みの日に、次のことをどのくらいしていますか。あてはまるものを1つ選び、番号につけてください。

(1) 美術館びじゅつかん、資料館しりょうかん、図書館などに行く。

1.よく行く 2.時々行く 3.あまり行かない 4.行かない

(2) 公民館こうみんかんや地区ちくの活動かつどうに参加さんかする。

1.よくする 2.時々する 3.あまりしない 4.しない

(3) 山登りや虫とりなど自然にふれる遊びをする。

1.よくする 2.時々する 3.あまりしない 4.しない

(4) スポーツ少年団だんで活動する。 1.よくする 2.時々する 3.しない

(5) 習いごとやおけいごとをする。 1.よくする 2.時々する 3.しない

2 調査結果及び結果分析

[調査人数 第3学年 2218名 第5学年 2265名]

(各学校1クラス5名を抽出して調査した)

数値は、全回答数に対する割合(%)である。

無回答や回答が不明なものがあるので、それぞれの質問に対する回答の和は100%にならない。

1

どの授業が好きですか。 (複数回答)		国語	社会	算数	理科	音楽	図画工作	家庭	体育	総合的な学習の時間
	3年	33.9	31.3	50.2	57.5	56.7	69.3	81.1	47.7	
5年	29.5	23.0	43.8	43.8	51.4	58.2	60.1	69.3	40.9	

3年生では、国語、社会、総合的な学習の時間を除いた教科については、半数以上の児童が好きだと答えており、昨年度と比べても全体的に大きな変化は見られない。総合的な学習の時間については、昨年度よりも約10ポイント高くなっている。5年生では、どの教科においても、3年生に比べて好きだと答えた児童の割合は低くなっている。理科を好きだと答えた児童の割合は、昨年度に比べて約5ポイント高くなっているが、社会を好きだと答えた児童の割合は、前年度と同様、20%程度と低い。

2

授業はどのくらい分かりますか。		よく分かる	だいたい分かる	半分くらい分かる	ほとんど分からない
	(1)国語	3年	42.1	42.7	11.3
	5年	41.4	45.8	10.9	1.2
(2)社会	3年	40.4	38.9	16.0	2.7
	5年	31.7	45.8	18.5	2.6
(3)算数	3年	58.7	28.4	9.5	1.8
	5年	52.1	33.3	11.7	2.1
(4)理科	3年	58.8	31.0	7.3	1.0
	5年	46.8	40.0	11.3	1.3

「よく分かる」と「だいたい分かる」を合わせた割合は、4教科を平均すると、3年生、5年生それぞれ約85%、84%となり、昨年度と比べて大きな変化は見られない。3年生、5年生ともに、4教科の中で、社会を「よく分かる」「だいたい分かる」と答えた割合が一番低くなっている。3年生では、「好きだ」と答えた割合が高い「算数」「理科」において、「よく分かる」「だいたい分かる」と答えた割合も高くなっている。一方、5年生では、「好きだ」と答えた割合が、「算数」「理科」に比べて低い「国語」において、「よく分かる」「だいたい分かる」と答えた割合は、「算数」「理科」と同程度の約87%である。国語はあまり好きな方ではないが、児童はおおむね理解していると考えていると言える。

3

どんな形態の授業や学習方法が好きですか。	3年	5年
先生が一人で教える授業	37.8	33.6
先生が何人かでみんな一緒に教える授業	23.9	15.6
学級がいくつかに分かれてする授業	32.0	32.6
コンピュータを使った授業	74.3	76.8
実際に物を使って考える授業	68.2	64.3
グループで話し合いながら考える授業	53.9	52.8
自分でノートにまとめながら考える授業	28.7	26.5
ワークシートに記入しながら考える授業	25.6	17.7
その他	2.8	1.6

両学年とも、「コンピュータを使った授業」や「実際に物を使った授業」が好きだと答えた割合が約65~75%と、最も高かった。次に、「グループで話し合いながら考える授業」を好きだと答えた割合が、約50%であった。児童は、具体物等を活用した学習や、話し合いながら友達と学び合う学習などを好む傾向がある。また、5年生では、ワークシートを使った学習を好む児童の割合は約20%であるのに対して、ノートを使った学習を好む児童の割合は約30%と、ワークシートを使った学習よりもノートを使った学習を好む児童の方が多い。授業形態については、TTの授業よりも先生が一人で指導する授業や少人数の授業を好む傾向がある。

4

学校や家で勉強して分からないことがあるとき、どのようにしていますか。	自分一人 でがんばる	友達に 聞く	家の人 に聞く	学校の 先生に 聞く	塾や家庭 教師の先 生に聞く	そのまま にしてお く	無回答
3年	24.3	5.4	61.2	4.8	0.9	0.9	2.6
5年	19.1	10.1	57.5	4.1	1.6	0.9	6.6

勉強して分からないときには「家の人に聞く」と答えた児童が、3年生、5年生ともに、約60%であり、昨年度と同じ程度である。次に、「自分一人がんばる」と答えた児童が多く、昨年度と同じ程度である。「そのままにしておく」は、約1%であることから、ほとんどの児童は、分からないことがあったら、何とかして解決しようとしていることが分かる。また、「学校の先生に聞く」は、約4～5%であり、昨年度と同程度である。

5

家ではどのように勉強していますか。		いつも している	だいたい している	たまに している	していない
(1)出された宿題はきちんとする。	3年	71.4	20.8	4.7	0.8
	5年	70.2	25.0	3.5	0.4
(2)家の人から言われなくても進んで勉強する。	3年	39.6	38.8	14.2	4.1
	5年	41.5	42.8	12.9	1.8

(3)自分で面白いと思ったことは学校の勉強に関係なく調べる。		よくする	たまに する	したこ とがない
	3年	21.3	50.4	25.4
	5年	18.4	61.0	19.4

宿題については、3年生、5年生ともに90%以上の児童が出された宿題にだいたい取り組んでいると答えており、昨年度と同様に高い。また、約80%の児童が家の人から言われなくても進んで勉強していると答えており、昨年度と同様に高い。しかし、自分でおもしろいと思ったことを進んで調べようとする児童は約20%程度であり、進んで調べようとしたことがないと答えた児童も約20%である。さらに、興味・関心をもって調べようとする意欲を高める必要がある。

6

		ほとんど しない	30分 くらい	1時間 くらい	1時間30 分くらい	2時間 くらい	2～3時 間くらい	3時間よ り多い
(1)平日の家での勉強時間	3年	4.4	33.9	35.8	13.7	7.0	2.1	0.9
	5年	2.6	21.1	36.4	24.3	10.1	3.4	1.2
(2)休日の家での勉強時間	3年	10.2	25.6	26.7	15.4	8.6	5.7	3.9
	5年	3.9	17.0	26.9	19.9	16.6	10.0	4.6

平日の家での勉強時間は、3年生、5年生ともに「1時間くらい」と答えた児童の割合が最も高く、3年生の割合が昨年度に比べて約3ポイント高くなっている。休日の家での勉強時間は、「2時間以上」と答えた児童の割合は、5年生において、昨年度に比べて5ポイント程度高くなり、「ほとんどしない」「30分くらい」と答えた児童の割合は低くなっていることから、全体的に勉強時間が長くなっていると言える。

7

(1) 学習塾に通っていますか。		通っている	通っていない
	3年	20.9	69.9
	5年	18.6	71.3

(2) 1週間に何日通っていますか。		1日	2日	3日	3日より多い
	3年	9.1	7.5	1.6	1.7
	5年	5.7	8.0	2.5	1.8

(3) 塾で一回大体何時間勉強していますか。		30分	1時間	1時間30分	2時間	2時間より多い
	3年	2.6	8.2	3.8	2.6	2.2
	5年	1.0	4.9	3.8	3.8	4.4

学習塾には、約20%の児童が通っており、昨年度と同程度である。塾に通っている児童は、週に1日から2日通っている児童が多い。塾での学習時間は、3年生は、「1時間」と答えた児童の割合が約8%と最も高いが、5年生は、「1時間」「1時間30分」「2時間」「2時間より多い」と答えた児童の割合は、それぞれ約4～5%となっている。

8

(1) 本を読むことは、好きですか。		とても好き	まあまあ好き	あまり好きでない	きらい
	3年	55.9	33.1	6.7	2.5
	5年	41.8	43.8	10.2	2.6

(2) 1ヶ月に大体何冊くらい本を読んでいますか。		読まない	1冊	2冊	3冊	4冊	5～10冊	10冊より多い
	3年	2.8	9.1	8.7	7.9	12.0	21.7	35.5
	5年	3.0	10.6	10.8	13.0	13.5	25.3	22.5

本を読むことについて、「とても好き」「まあまあ好き」を合わせた割合は、3年生、5年生それぞれ、約90%、86%であり、多くの児童が本を読むことを好んでいる。また、1週間に1冊以上読んでいる児童は、3年生、5年生それぞれ、約70%、60%であり、昨年度と同様に高い。朝の読書活動や日頃の読書指導の成果がみられる。今後とも、読書活動の充実を図り、さらに多くの児童が本に親しむように指導を重ねていく必要がある。

9

学校が休みの日、次のことをどのくらいしていますか。		よく行く・する	時々行く・する	あまり行かない・しない	行かない・しない	
	(1) 美術館、資料館、図書館などに行く。	3年	9.3	25.0	31.2	32.0
		5年	5.3	26.4	35.7	30.5
(2) 公民館や地区の活動に参加する。	3年	37.5	25.8	19.1	13.5	
	5年	38.5	31.7	17.0	9.9	
(3) 山登りや虫取りなど自然にふれる遊びをする。	3年	27.1	29.2	23.6	15.7	
	5年	19.8	32.1	31.1	15.2	

(4) スポーツ少年団で活動する。		よくする	時々する	しない
	3年	30.1	9.9	53.6
	5年	42.7	9.7	44.1
(5) 習い事やお稽古ごとをする。	3年	40.6	15.4	36.6
	5年	42.0	15.7	38.6

各項目について、昨年度とほぼ同じ傾向がみられた。「休日に美術館、資料館、図書館などに行く」の児童の割合は、「よく行く」「時々行く」を合わせると、約30～35%であった。また、「公民館や地区の活動に参加する」の児童の割合は、「よく行く」「時々行く」を合わせると、3年生で約60%、5年生で約70%であり、5年生の方がよく参加していることが分かる。「山登りや虫取りなど自然にふれる遊びをする」の児童の割合は、「よく行く」「時々行く」を合わせると、3年生で約60%、5年生で約50%であり、3年生の方が自然にふれる機会がやや多い。「スポーツ少年団で活動する」児童の割合は、3年生は約30%、5年生は約40%であり、5年生の方がやや多い。「習い事やお稽古ごとをする」児童の割合は、3年生、5年生ともに約40%であり、ほぼ同じ割合であった。

